

2 田住桶川遺跡における近世墓の様相

田住桶川遺跡において検出された近世墓は総数21基を数える（第116図）。これらをその分布状況からA、Bの2群に分けた。またここでは墓壇形態などから以下のように分類する。

平面形態；Ⅰ類－長方形、Ⅱ類－方形、Ⅲ類－円形

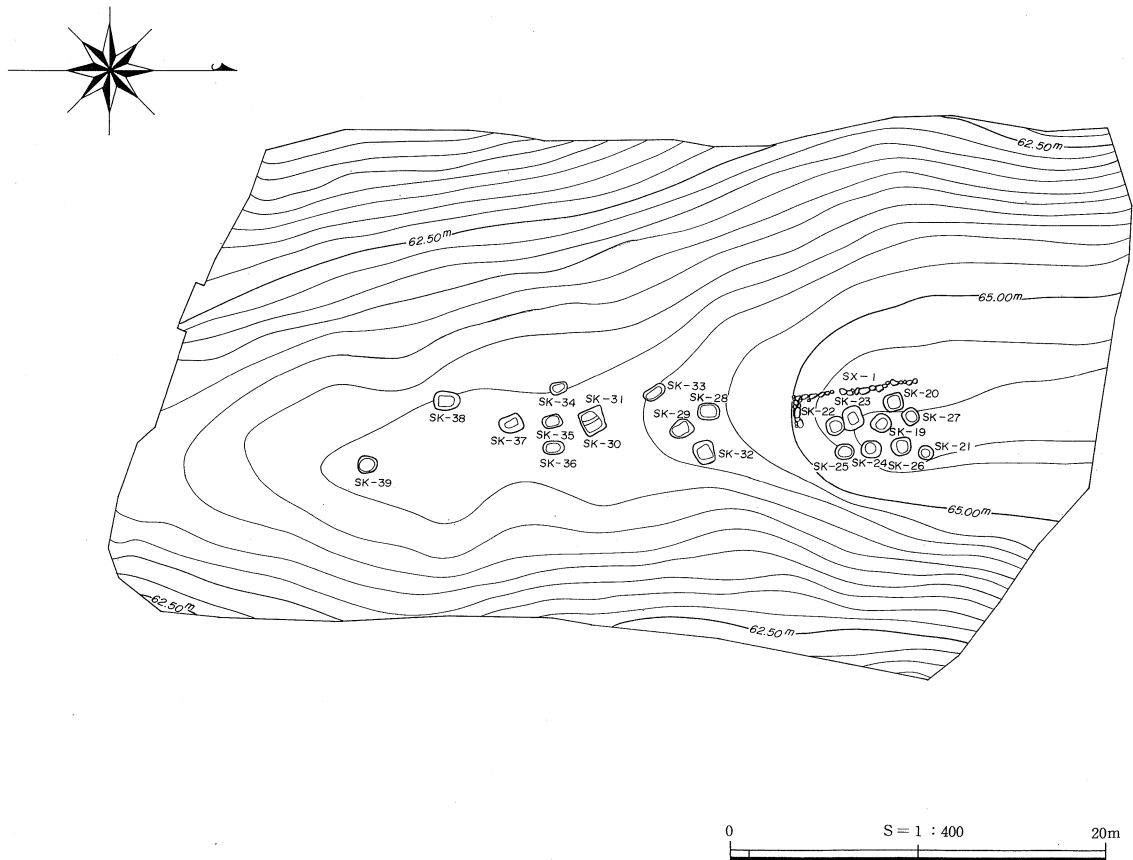
底面施設；1類－あり、2類－なし

墓標 ； a類－大礫、b類－人頭大礫、c類－石塔、d類－なし

・埋葬施設について

Ⅰ-1類は5基（SK-34～38）確認できた。a、c類はなく、SK-35、38がb類、他はd類に属す。SK-35の断面（第80図）をみると、北壁に僅かに段が形成され、その段から下には第2層が堆積、直上には包丁（263）がのっている。これは床より12cmほど高い位置にあり、北壁にみられる段との関係からしてこの高さに板が敷かれていたのであろう。SK-37、38では南北壁の裾に壁と並行に溝が掘られ、底面を南北方向に掘り窪めているが、こうしたものも底板の痕跡ではなかろうか。そしてこれらは遺体が直接土に触れないよう配慮された施設と考えられる。またSK-34は底面北側に礫を1個置く。そして挿鉢が内面を下にして南壁側にある。この出土状況から挿鉢は遺体の顔の上に被せられたものではないかと思われる。こうした埋葬方法をとるのは死亡に際し特殊な事情があったものである可能性をもつ（註1）。底面施設に底板ではなく、礫を置く構造も特異である。

Ⅰ-2類は8基ある。a類は2基あり、SK-25は出土した人骨が解剖学的位置を保っておらず、再葬墓である可能性が考えられる。もう1例（SK-21）もその規模から再葬墓、あるいは幼児墓であったと推測される。c類も2基あり、SK-29からは正坐位で埋葬された熟年から老年の男性人骨が出土した。この人骨は上半身が前方へ倒れており、これは墓壇がすべて埋まる前に墓壇内に空間があったことを意味する。すなわち棺桶に入れられていたものであり、墓壇形態から坐棺と考えられる。またSK-28もSK-29と同規模をもつことから、同じ埋



第116図 田住桶川遺跡近世墓遺構配置図

墓壇 番号	形態分類	葬法	性年 別年齢	銭	煙 管	鉄	毛 抜	その他	釘	時期	備 考
19	Ⅲ-2-a	早桶	? A		2		1	針 1		18c後	
20	Ⅱ-2-a	坐棺									
21	I-2-a										
22	Ⅱ-2-a	坐棺	? A								
23	Ⅱ-2-a	坐棺	F A	3		1	1		2	1739～	頭陀袋に副葬品
24	Ⅲ-2-a	早桶	MA	2				皿 1		1741～	土師質皿
25	I-2-a	再葬?	Ma	1	1	1	1			18c後	頭陀袋、コウヤマキ加工材
26	Ⅱ-2-a	坐棺	? A				1		2		
27	Ⅲ-2-a	早桶	? C	10	1		1		1	18c後	
28	I-2-c									1716	『国蔵ノ父』※
29	I-2-c	坐棺?	MO							1736	『反原村住人』※
30	I-2-d										
31	I-2-d	再葬?	? A								墓壇内に磔を積む
32	Ⅱ-2-c	坐棺	F A			1			35		
33	I-2-d										
34	I-1-d							播鉢 1		18c初	墓壇内に磔を置く
35	I-1-b							包丁 1			
36	I-1-d		? a	2	1			櫛 1		18c前	底面窪ませる
37	I-1-d										底面窪ませる
38	I-1-b			5							底面窪ませる 金具?
39	I-2-d										

19～27はA群、28～39はB群。

人骨の年齢、性別はC；小児、A；壮年～熟年、O；老年、a；成人、M；男性、F；女性で表記。

副葬品などはそれぞれ数量を記載。時期の中で「～」のあるものは銭の初銜年代を表す。

※は過去帳に記載されていたもの。

表1 近世墓一覧表

葬形態を採っていたと推測される。d類に属するものは4例ある。SK-31は墓壇南に磔を2個積み重ね、北半分には人骨を置き、その上を覆うように1個の磔がある。この在り方は、墓壇上に置いた大磔が墓壇内に落ち込んだとは考えにくい。また頭蓋骨のみが出土したことから、再葬である可能性が指摘できよう。なおb類のものは検出されなかった。

次にⅡ類をみてみると、1類はなく5例とも2類に属する。すべて坐棺に遺体を入れ、埋葬されたものである。a類のものはいずれもA群にあり、B群にはc類のSK-32の1例しかない。墓壇上に人頭大の磔が置かれていたが、これはSK-28、29で検出された石塔を固定するために敷かれたものと類似し、この墓壇にも石塔がのっていた可能性が考えられる。225（第77図）はその破片か。

Ⅲ類は2-a類のみであり、すべてA群に分布する。これらは遺体を早桶に入れ埋葬されたものである。

人骨の遺存状況をみてみるとA群9基中7基、B群では12基中4基しか遺存していない。仮に、再葬と考えられるSK-25、31を除くと、A群75%の遺存率に対し、B群は27%しかない。A群の葬法をみると坐棺、あるいは早桶に入れられ葬られたと想定される。またB群で遺存しているもの3基の内2基は、やはり坐棺に収められてい

た。ここから棺桶に埋葬されたものは人骨の遺存もよいことが窺える。その一方で遺存していないものは、直葬であった可能性があり、I-1類は底板や礫の上に直接遺体を安置したと考えられそうである。これらから釘が1点も出土していないことも重要である。

・副葬品について

次に副葬品を取り上げる。A・B群のどちらにもみられるものは銅銭、煙管、そして鉄である。鉄をもつのはB群ではSK-32のみであり、SK-36は銅銭と煙管、さらに木製の櫛が副葬される。銅銭は1636年初鑄の古寛永通宝と、1668年の文銭があるが、煙管はその型式編年から18世紀の前半と判明（註2）し、この墓壇の大まかな年代がわかった。

A群は毛抜きを副葬するものが5例と最も多く、次いで銭（4例）、煙管（3例）と鉄（2例）となっている。SK-23では毛抜き、鉄、銭（176~178）の3点が接着していて、これらは仰臥坐位をとる人骨の頭蓋骨の下、腹部に当たると思われるところから出土した。また鉄と毛抜きには布の痕が残っており、こうした状況からこれらは頭陀袋に入れられ、被葬者の首にかけられたものであったことがわかった。同じ様に鉄と毛抜きが接着し、そこに布の痕跡をもつものはSK-25にもある。ここからは他に煙管と銅銭も出土した。しかし、この被葬者は解剖学的位置を保っていないため再葬と考えられる。これら遺物は最初に葬られたとき、頭陀袋に入れ首からかけられていたものであった。そして骨などとともにかき集め、埋葬し直したであろうことは棺材と思われるコウヤマキの加工材が出土していることから想像される。

死に対しては死出の旅立ちという観念があり、死者には旅装束をさせる。そして副葬品は三途の川の渡し賃である六道銭や、生前の愛用品を頭陀袋に入れてもたせると従来解釈されてきている。確かにA群の副葬品をみると、銭、煙管、鉄、毛抜きという4点はSK-25で纏まって出土していることから、ひとつのセットと考えられる。しかしSK-27では小児を埋葬した墓であるにもかかわらず煙管が副葬されていることから、これらセットは愛用品というよりも死への旅立ちにあたって、死者にもたせる定型化したトラベル・セットであると考えられる。

米子市陰田第6遺跡でも、18~19世紀末の墓が38基みつかった（註3）。これらは陰田・日御崎神社の神主であった櫃田家に係わるものといわれ、墓から出土した副葬品をみても陶磁器や鏡などの品があり、同時期の農村部である田住桶川遺跡のものとの格差は大きい。しかし、ここでトラベル・セットとして挙げた4点は共通してみられ、11基から出土していることから同じような意識があったものと思われる。またここでは男女における差もみられず、年齢・性別に係わらずこのセットが普遍性をもつものであったのだろう。

銅銭の出土状況についてはSK-27からは10枚、SK-38では5枚もの銅銭が接着してみつかった。鉄などと接着した例もあり、これらは頭陀袋に入れられていたのであろう。ただ本遺跡では確認できなかったが、銅銭の穴に紐を通し首から下げていたと推定される例もあり（註4）、今後その出土状況に注意する必要がある。溝口町大坂では六文銭は頭陀袋に入れず穴に紐を通し、遺体の首にかけたという（註5）。

・墓制の変遷について

以上埋葬施設と副葬品について検討をしてきた。そこでこれらをまとめ、その変遷について触れることにする。

21基の近世墓が検出されたが、そのうち時期は石塔の年代、銭の初鑄年代、煙管の編年などから判断した。A群は銅銭と鉄銭の初鑄年代がそれぞれ1741、1739年であること、煙管の型式がいずれも18世紀の後半に比定できることから概ね18世紀後半に営まれたもの、B群は二つの石塔の年代、播鉢や煙管の年代から概ね18世紀の前半に相当するものと判定した。

さて年代の最もはっきりしているのは2基の石塔（I-2-c類）である。SK-28が1716年、SK-29は1736年。石塔の下には人頭大の礫が敷かれ、プランは長方形を呈す。石塔を除けばこれに類似するのはI-1-b類のSK-35、38である。しかしこの類は底面に底板を敷きその上に遺体をおいたもので、坐棺によって葬られたものではないと想像される。さらに坐棺がB群にあまりみられず、A群にあるように18世紀後半の主流となる葬法であることから、底板を敷くものはより古い墓制であると思われる。

時期	墓 壙 形 態	葬 法	副 葬 品
17c後半			
18c前半	I-1-d I-2-c	底板 坐棺	銭 煙管
	II-2-c		
18c後半	II-2-a III-2-a I-2-a	早桶	毛拔
19c前半			

表2 墓制の変遷

石塔がのっていた可能性のあるものに、墓壙上面の礫の在り方からSK-32が挙げられる。これはまた石塔をもつ2基と近接していることから、それほど時期が離れたものではないだろう。しかし墓壙形態は方形（II類）を呈し、また副葬品に鉄をもつことは他のB群とは趣が異なり、A群のII類に非常に近いものといえる。これらを整理すると、

I-1類 → I-2-c類 → II-2-c類 → II-2-a類

（長方形、底面施設）（長方形、石塔）（方形、石塔）（方形、大礫）

という変遷が辿れそうである。つまり18世紀前半まで主流であった長方形のプランを呈し、直葬か底面に底板などを敷くものから18世紀後半になって棺桶に入れて埋葬する習慣が一般的になってきたといえる。

両群ともにみられたものに再葬墓がある。いずれもプランは長方形を呈すが、SK-31は墓壙上に墓標はなく、墓壙内に石積みをするのに対し、SK-25は墓壙上に大礫を置く。これが位置するSX-1（A群）においては再葬墓であっても大礫を墓壙上に置くという共通性を示している。この変化が時期差によるものかどうかは判断しかねる。

一方副葬品をみると、トラベル・セットはA群において確立しており、B群ではSK-36にみられるのみである。すなわち18世紀後半に確立したもので、前半代ではまだ一般的ではなかったことが窺える。陰田第6遺跡でも18世紀後半以降に比定される墓の副葬品にこのセットがあり、同時代に地域的な拡がりがあったといえよう。

鳥取県において近世墓が纏まって検出された例は少なく、本遺跡の事例は貴重なものである。この墓が営まれた18世紀代は、会見郡において11件もの百姓一揆が起きている（註6）。こうした時代背景を探り、墓制の変遷を考えなければならない。今回各墓の葬法の差異の意味について言及し得なかったが、民俗事例や文献、また絵図の活用など様々な角度からアプローチしていく必要があるだろう。また、今回被葬者の埋葬肢位や副葬品の出土位置や再葬の可能性など、解剖学の立場から極めて貴重な所見をいただいた。今後近世墓の調査においては、解剖学的調査は欠くべからざるものと提言したい。末尾ながら鳥取大学医学部教授井上貴央先生に深甚なる謝意を表する次第です。

註1 桜井準也 「近世の鍋被り人骨の出土例とその民俗学的意義」『民族考古』第1号 1992年

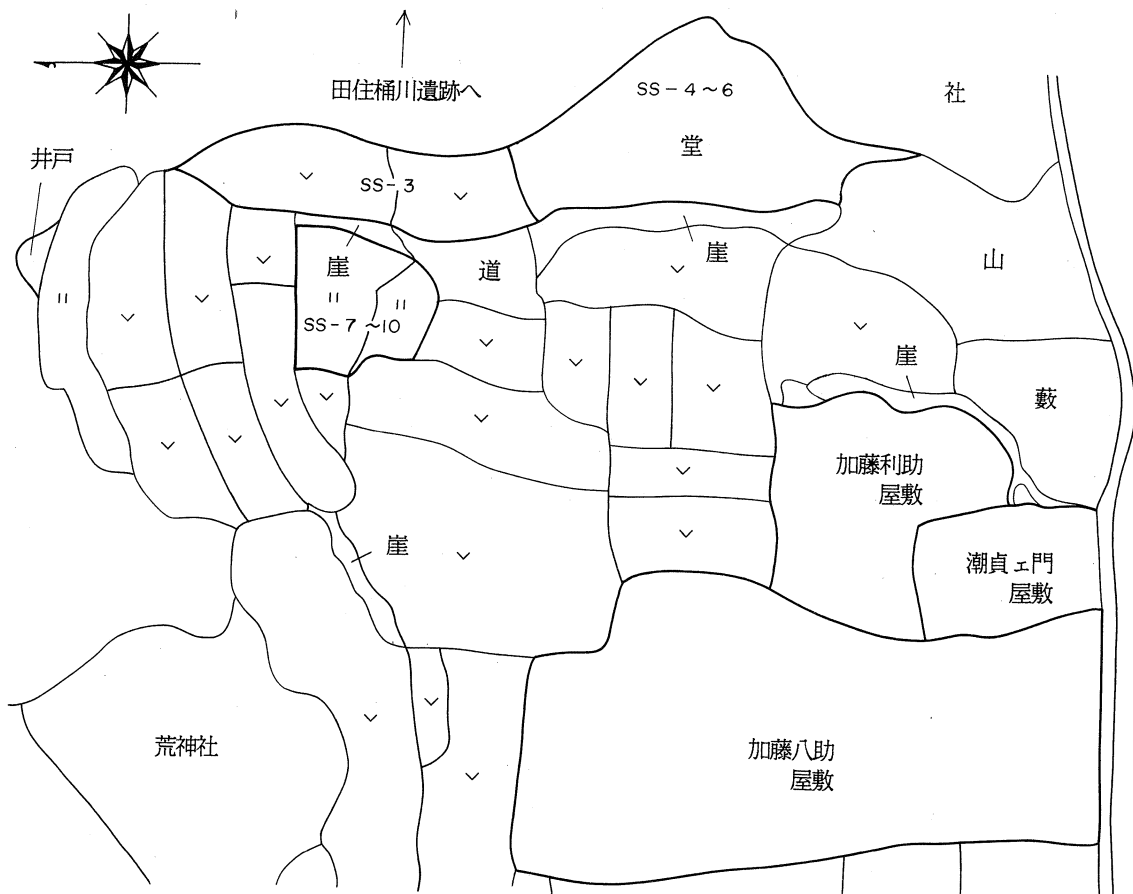
註2 古泉弘 「江戸の街の出土遺物—その展望—」『季刊考古学』第13号 1985年

註3 『陰田』 米子市教育委員会 1984年

註4 『平安京左京三条三坊十一町』 古代学協会 1984年

註5 古賀達也 「葬送と墓制」『日野川流域の民俗』坂田友宏編 1990年

註6 『会見町誌続編』 会見町誌続編編さん企画委員会編 1995年



第117図 『文政六年會見郡住吉村地續繪圖面帳』抜粹【六 阿さ名 表屋敷】 道
 (上図-原本の写し、下図-上図の地目を整理したもの)

報告書抄録

ふりがな	こまちいしばしのかみいせき あさかねだいにいせき たすみおけがわいせき たすみだいはちいせき							
書名	小町石橋ノ上遺跡 朝金第2遺跡 田住桶川遺跡 田住第8遺跡							
副書名	県営西伯地区広域農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	II							
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書							
シリーズ番号	52							
編著者名	北浦弘人・中森祥・上田浩一・山崎裕子							
編集機関	財団法人 鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター							
所在地	〒680-01 鳥取県岩美郡国府町宮下1260 TEL0857-27-6711							
発行年月日	西暦 1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東径 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		町村	遺跡番号					
こまちいしばしのかみいせき 小町石橋ノ上	とっとりけんさいほくぐん 鳥取県西伯郡 きしもとちようあざこまち 岸本町字小町	31383	1-350	35°22'04"	133°24'27"	19960415 ～ 19960930	5,506	道路（西伯地区広域営農団地農道）整備に伴う事前調査
あさかねだいに 朝金第2	とっとりけんさいほくぐん 鳥取県西伯郡 あいみちようあざたすみ 会見町字田住	31832	306	35°21'45"	133°23'01"	19960415 ～ 19960729	1,126	
たすみおけがわ 田住桶川	とっとりけんさいほくぐん 鳥取県西伯郡 あいみちようあざたすみ 会見町字田住	31832	446	35°21'52"	133°22'59"	19960701 ～ 19961213	1,313	
たすみだいはち 田住第8	とっとりけんさいほくぐん 鳥取県西伯郡 あいみちようあざたすみ 会見町字田住	31832	365	35°21'50"	133°22'55"	19960701 ～ 19961213	2,201	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小町石橋ノ 上	集落跡	古墳～奈良、近世	竪穴住居跡 3 溝 11 テラス状遺構 3 土坑 1 掘立柱建物 1 土塁 1 落とし穴 11	縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、 竈、製塩土器、円筒埴輪、瓦、砥石、 敲石、黒曜石剝片、鉄滓	
朝金第2	その他の遺跡 (土坑群)	弥生～近世	土坑 10	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器 土師質土器、陶磁器、近世墓石塔竿部 石斧	
田住桶川	その他の墓	弥生～古墳、近世	土壙墓 8 木棺墓 6 石棺墓 4 近世墓 21 近世墓基壇状石列 1	弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、 土師質土器、鉄刀、銅銭、鉄銭、釘、 毛抜き、はさみ、煙管、針、包丁、櫛 近世墓石塔竿部及び基部、人骨	吉備系 搬入土 器の出 土
田住第8	集落跡	近世	テラス状遺構 10 溝 7 井戸 2 土坑 4 土塁 1	弥生土器、須恵器、土師質土器、石臼 陶磁器、鞆の羽口、鉄製品、竹筒、瓦	

写 真 图 版



K I B ・ 調査前 ・ 南東から



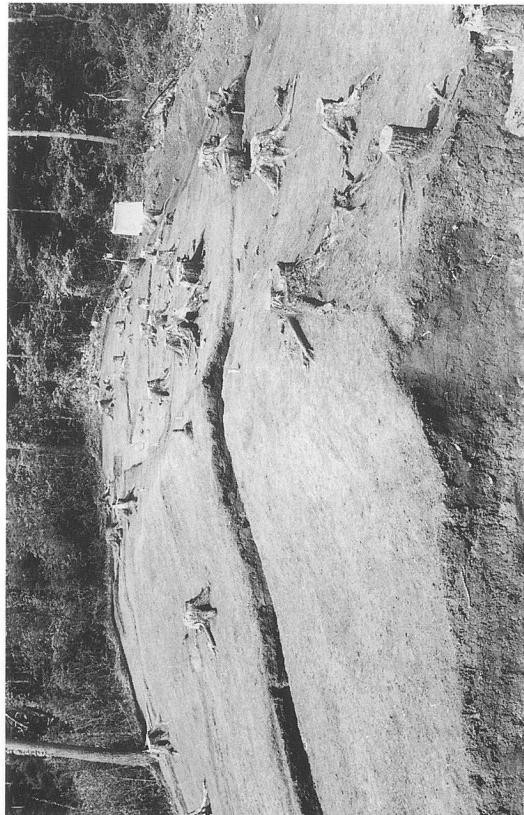
K I B ・ 全景 ・ 南東から



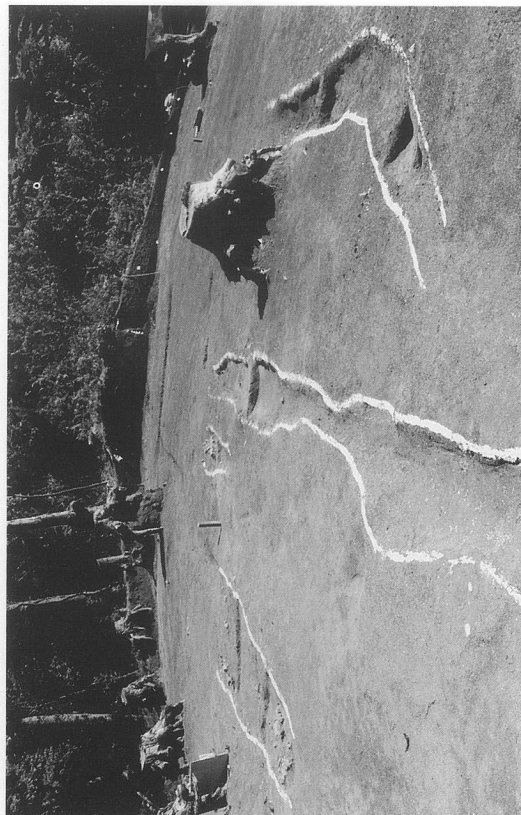
K I B ・ 全景 ・ 北東から



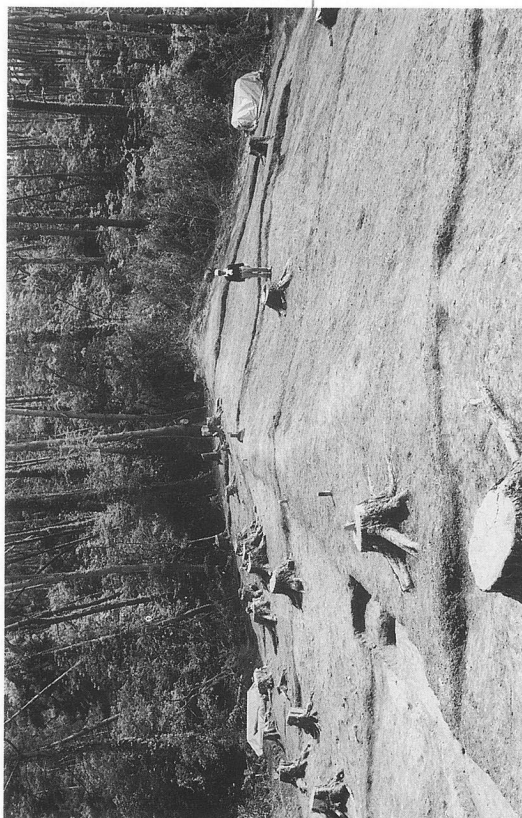
K I B ・ 土塁状遺構下層検出遺構全景 ・ 南東から



K I B ・土壘状遺構・北東から



K I B ・SD-1、2、4、5・南西から



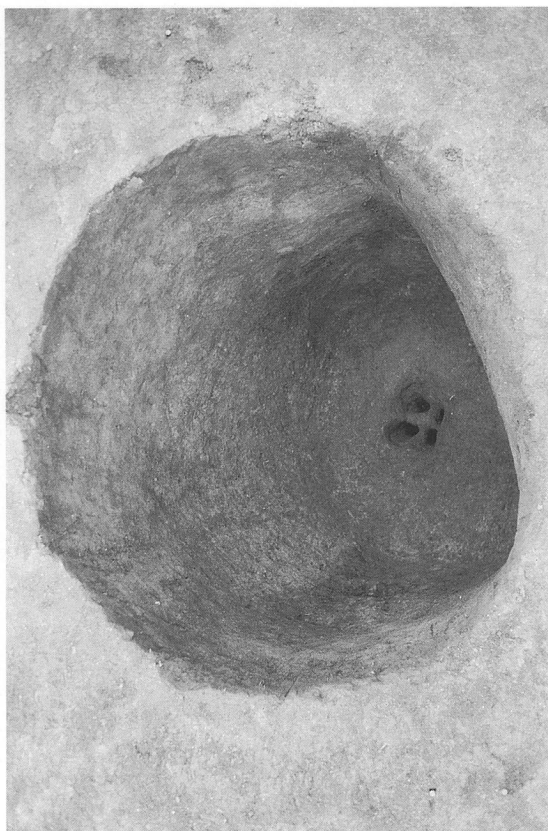
K I B ・土壘状遺構・南西から



K I B ・土壘状遺構土層断面・北から



K I B ・ S K - 3 ・ 北東から



K I B ・ S K - 5 ・ 東から

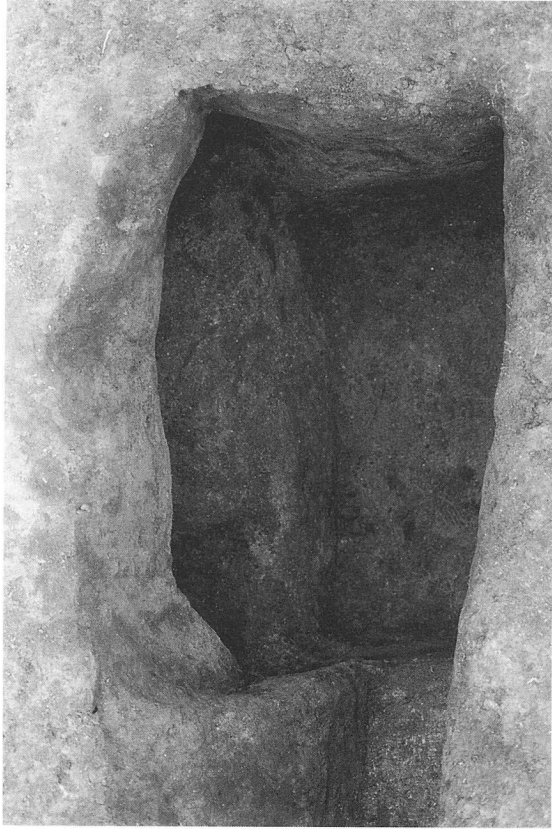


K I B ・ S K - 1 ・ 南東から

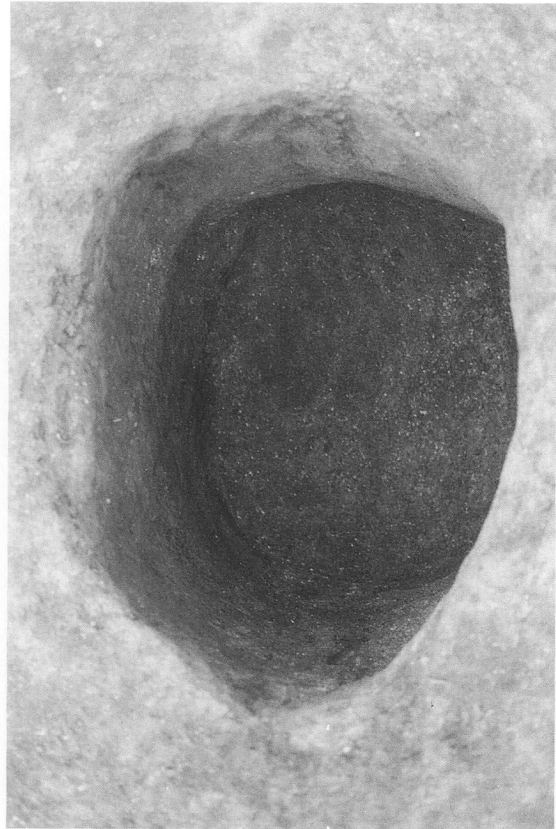


K I B ・ S K - 4 ・ 東から

図版 4



K I B ・ S K - 7 ・ 西から



K I B ・ S K - 9 ・ 西から



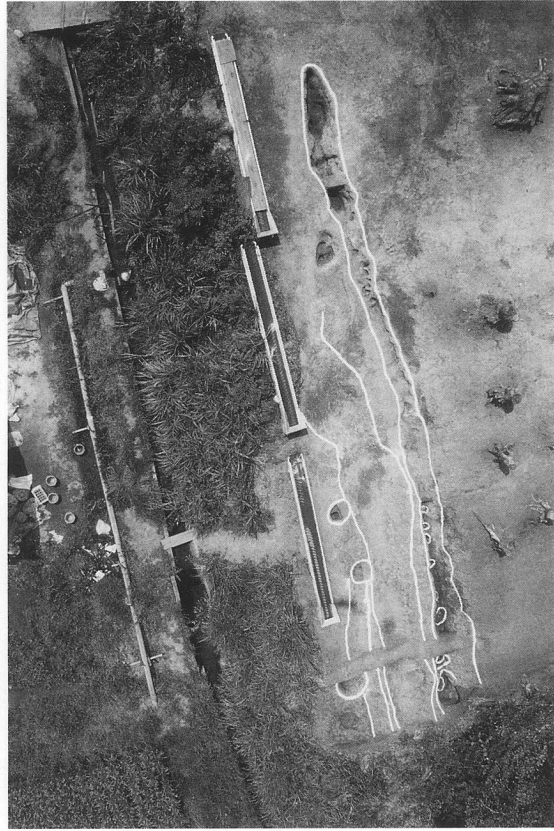
K I B ・ S K - 6 ・ 東から



K I B ・ S K - 8 ・ 東から



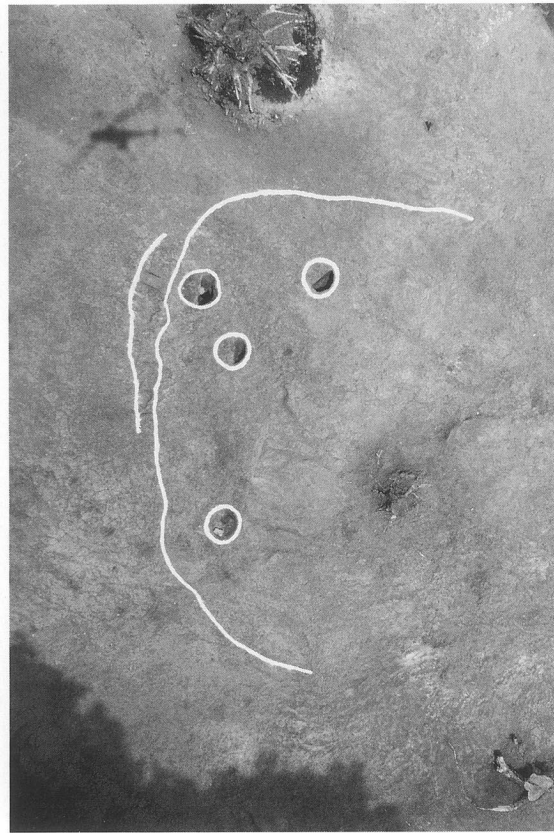
K I B・SS-1~3、SD-6、7・南東から



K I B・SD-8~10・北西から



K I B・尾根裾部全景・南東から



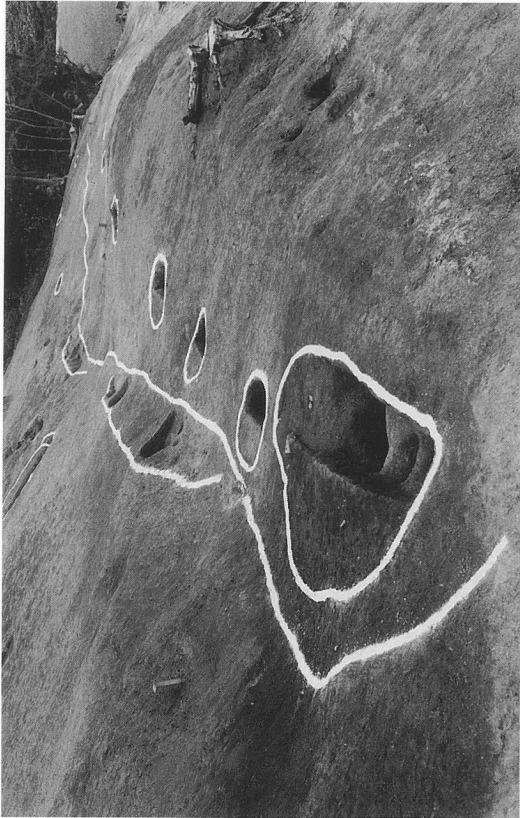
K I B・SS-2・南東から



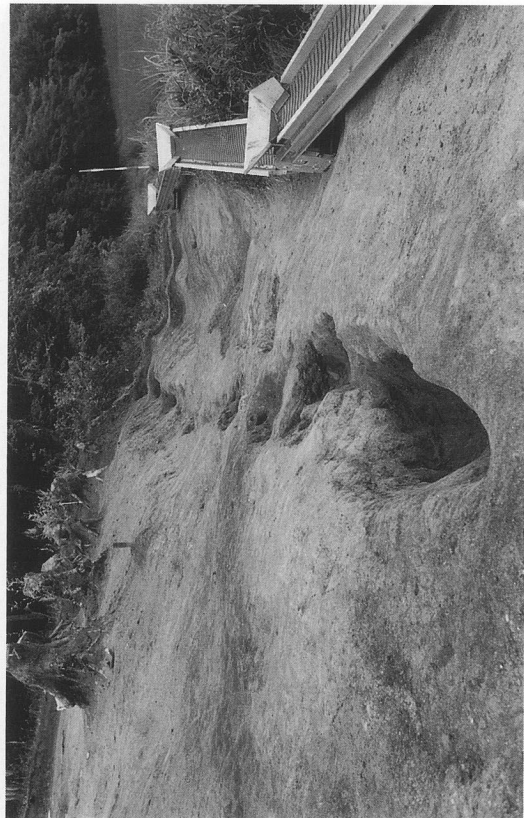
K I B ・ S S - 2 ・ 北から



K I B ・ S D - 11 ・ 南から



K I B ・ S S - 1 ・ 西から



K I B ・ S D - 8 ~ 10 ・ 南から



K I B ・ S K - 12 ・ 西から



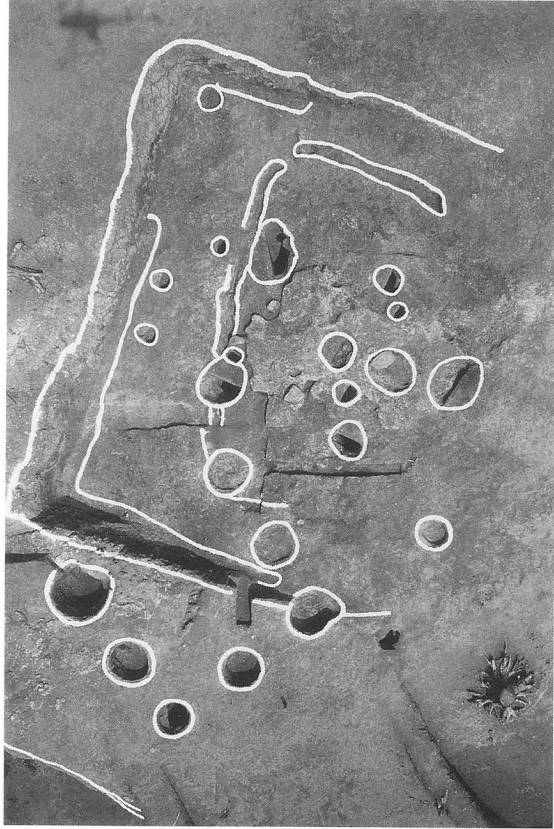
K I B ・ S B - 1 ・ 東から



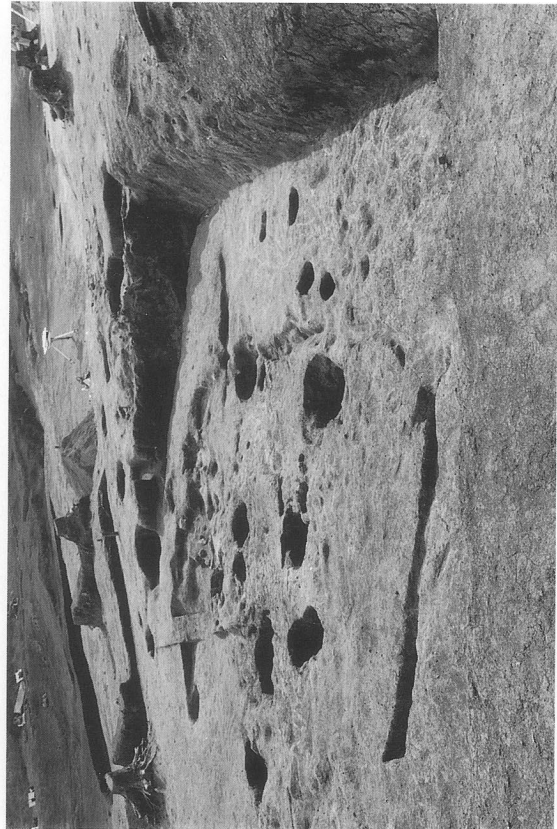
K I B ・ S K - 11 ・ 北西から



K I B ・ S K - 10 ・ 南東から



K I B・S I - 1、2・南東から



K I B・S I - 1、2・北東から



K I B・S I - 1 ~ 3・南東から



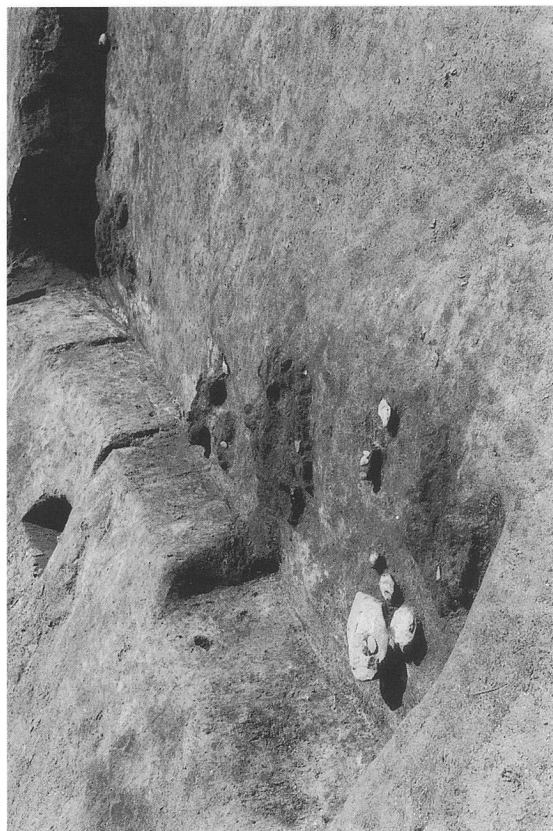
K I B・S I - 1 を覆う S I - 2 の貼り床・北から



K I B ・ S I - 3 遺物、炭化物検出状況・北から



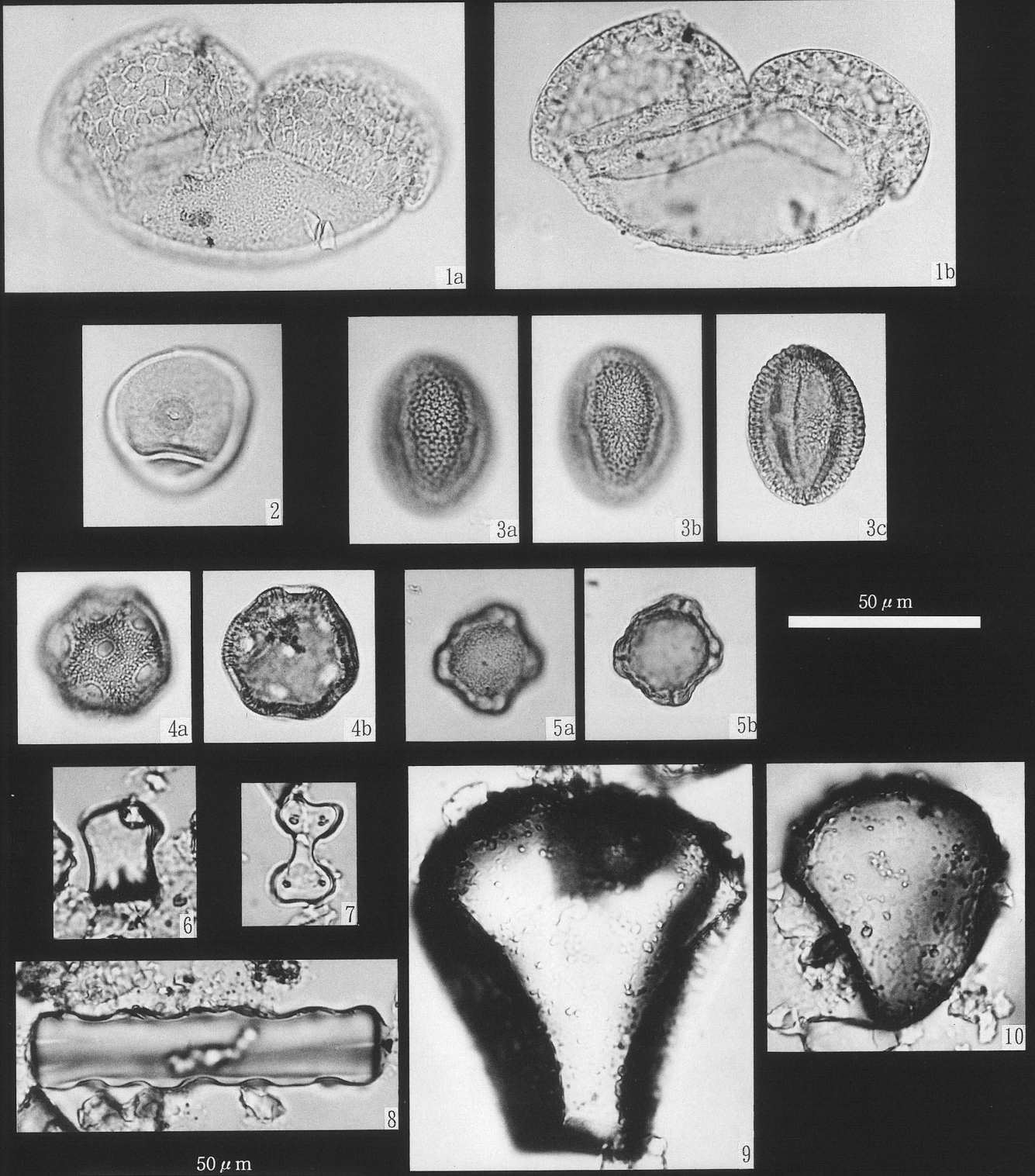
K I B ・ S I - 3 ・ 東から



K I B ・ S I - 3 遺物、炭化物検出状況・南西から



K I B ・ S I - 3 ・ 南から



- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. マツ属(SI01;13) | 2. イネ科(SI01;13) |
| 3. ソバ属(SI01;13) | 4. ナデシコ科(SI01;13) |
| 5. アリノトウグサ属(SI01;13) | 6. タケ亜科短細胞珪酸体(C地点;9) |
| 7. ススキ属短細胞珪酸体(C地点;9) | 8. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(C地点;9) |
| 9. タケ亜科機動細胞珪酸体(C地点;9) | 10. ウシクサ族機動細胞珪酸体(C地点;9) |



AG2・調査前・北から



AG2・全景・北から



AG2・SK-1・東から



AG2・SK-2・東から



AG2・SK-4・北東から



AG2・SK-7・北東から



AG2・SK-3・東から



AG2・SK-5、6・北東から



AG2・SK-9・北東から



AG2・SK-8・北西から



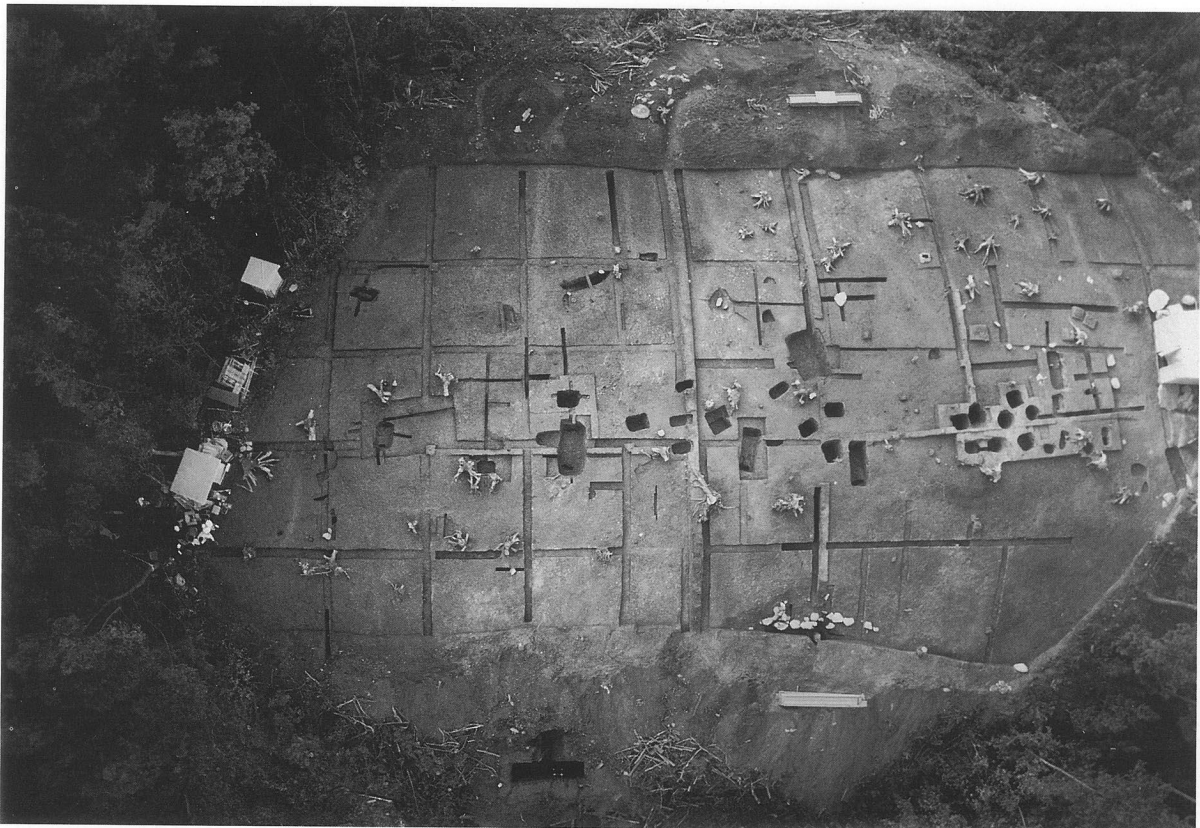
AG2・作業風景



AG2・SK-10・南東から



TSO・全景・東から



TSO・全景・東から



T S O ・ 調 査 前 ・ 南 从 从



T S O ・ S K - 2 ・ 北 从 从



T S O ・ 調 査 前 ・ 北 从 从



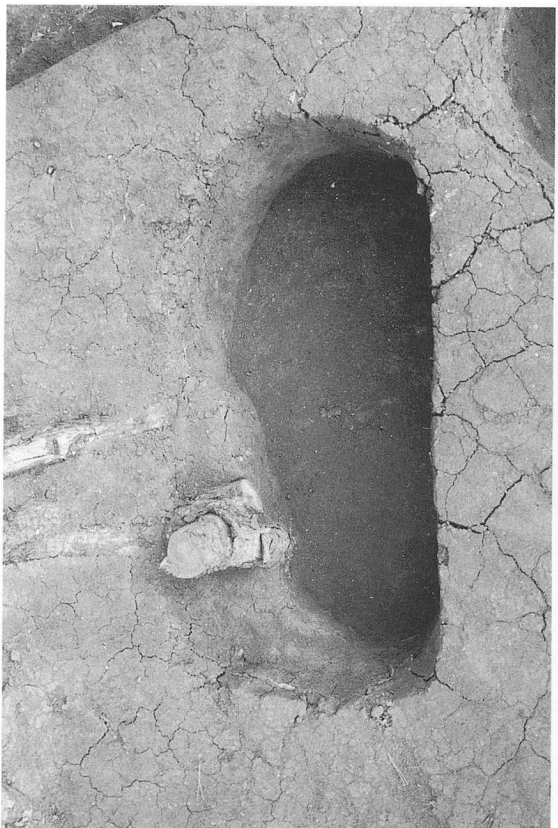
T S O ・ S K - 1 ・ 北 東 从 从



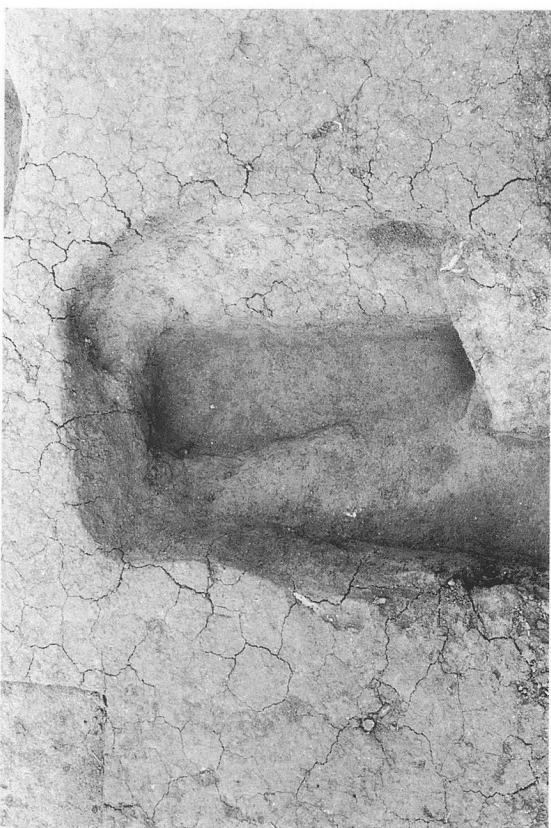
TSO・SK-5・西から



TSO・SK-8・東から



TSO・SK-3・南から



TSO・SK-6・東から



TSO・SK-10土層断面・南から



TSO・SK-11・南から



TSO・SK-10・南から



TSO・SK-9・西から



TSO・SK-11土層断面・西から



TSO・SK-12・西から



TSO・SK-11・東から



TSO・SK-12・北から



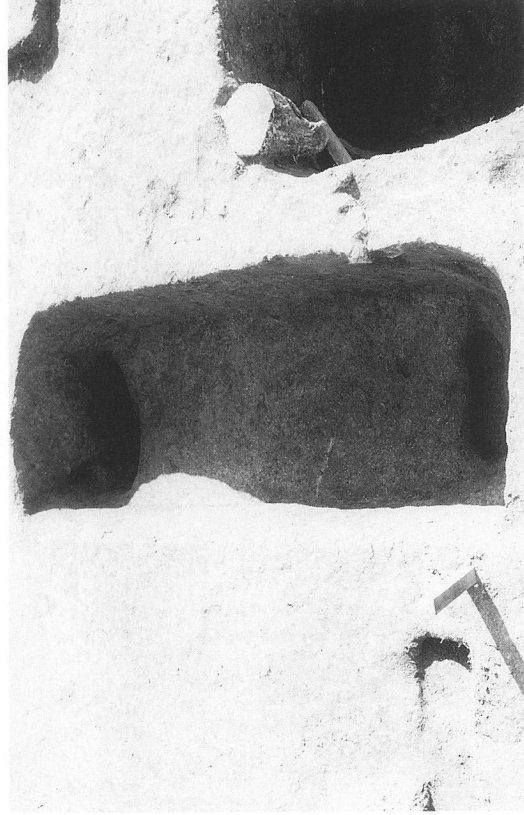
TSO・SK-13・北から



TSO・SK-13土層断面・東から



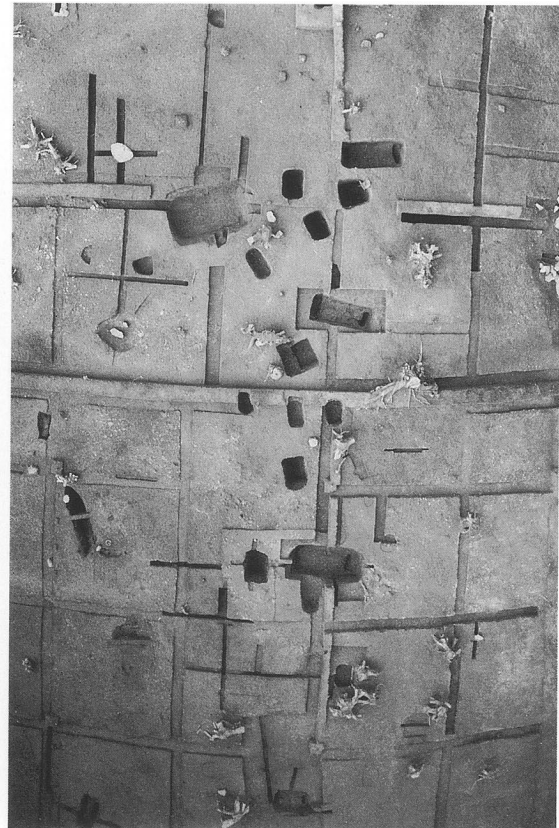
TSO・SK-12土層断面・東から



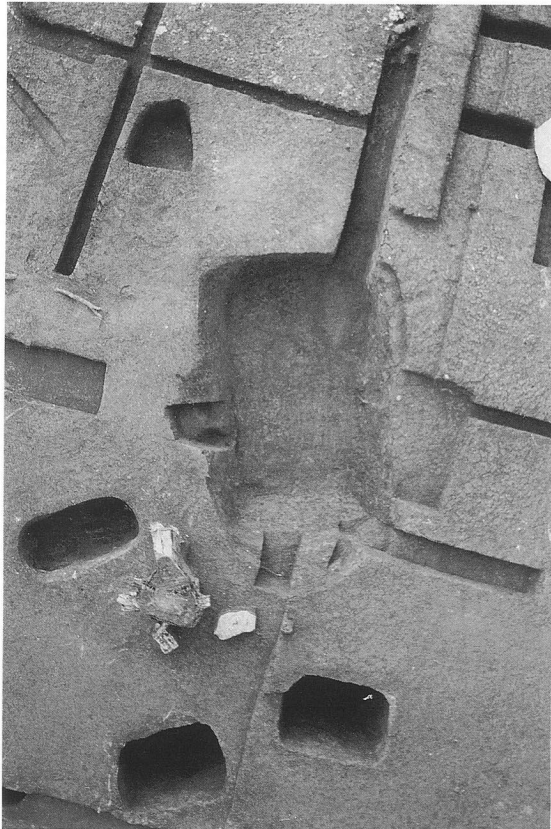
TSO・SK-13・西から



T S O ・ S K - 14 ・ 西から



T S O ・ 土墳墓の配置・東から



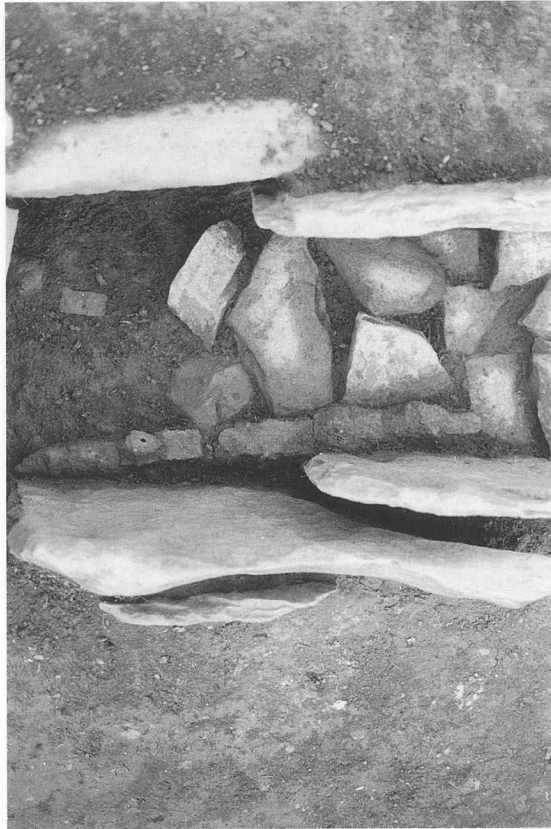
T S O ・ S K - 14 ・ 北から



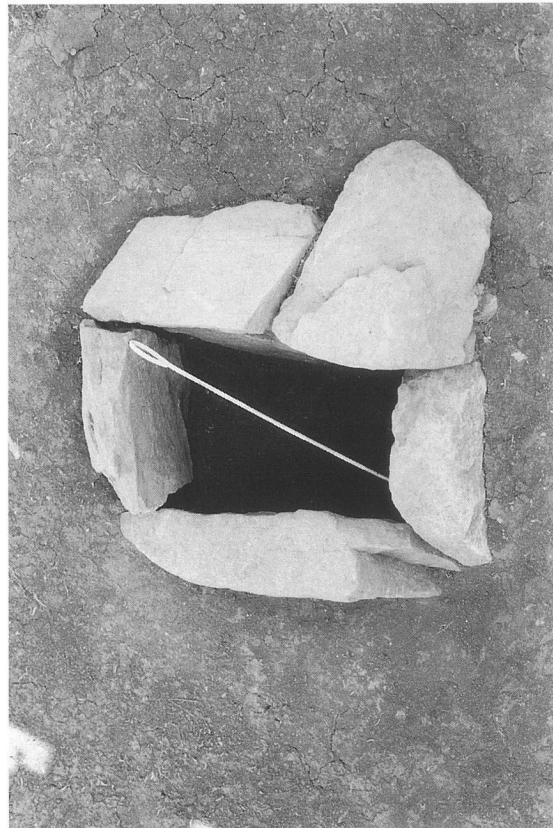
T S O ・ S K - 14土層断面・東から



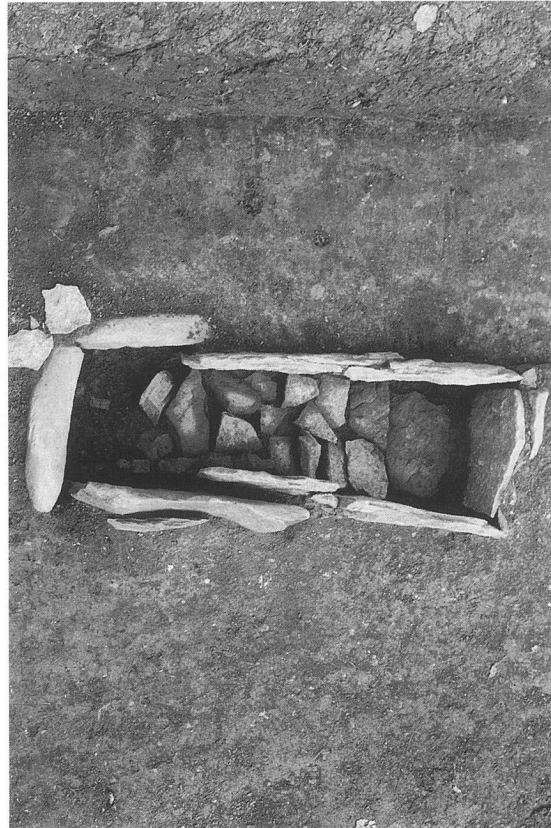
TSO・SK-16検出状況・南から



TSO・SK-16鉄刀(166)出土状況・南から



TSO・SK-15・南から



TSO・SK-16・床石検出状況・南から



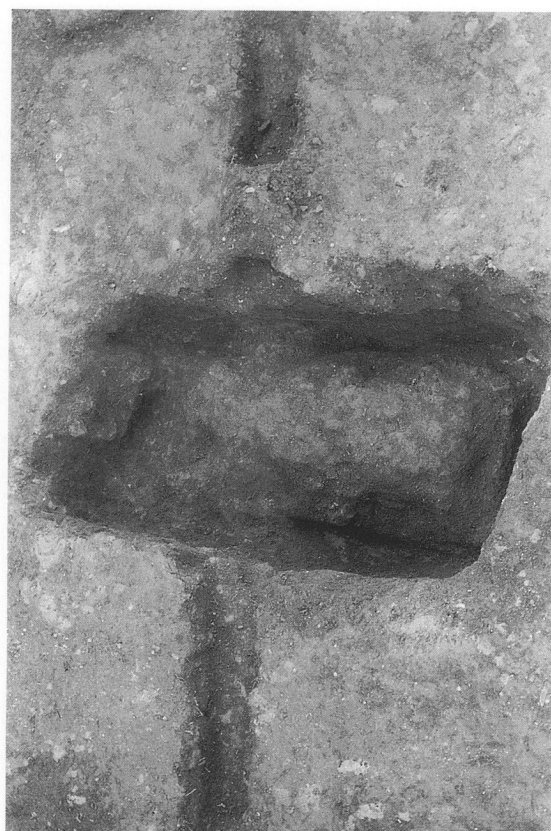
T S O ・ S K - 17 ・ 南から



T S O ・ S K - 18 ・ 南から



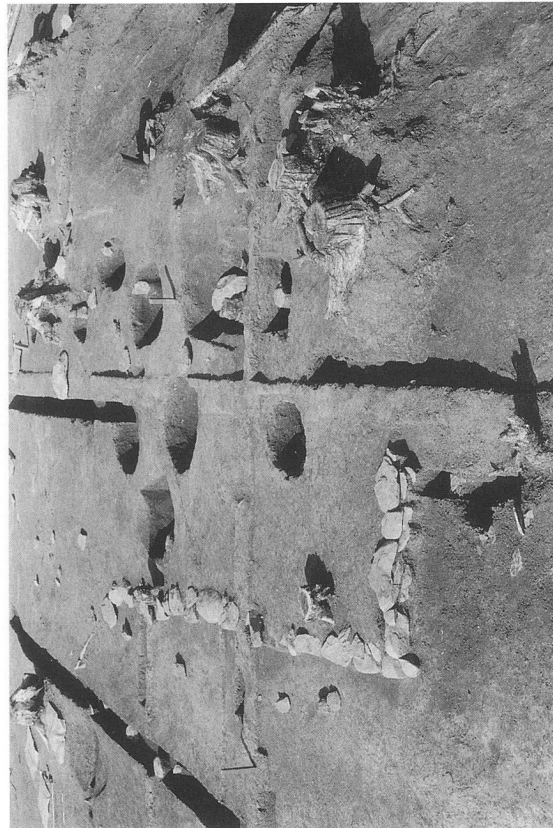
T S O ・ S K - 16 完掘状況 ・ 南から



T S O ・ S K - 17 完掘状況 ・ 北から



TSO・SX-1・南から



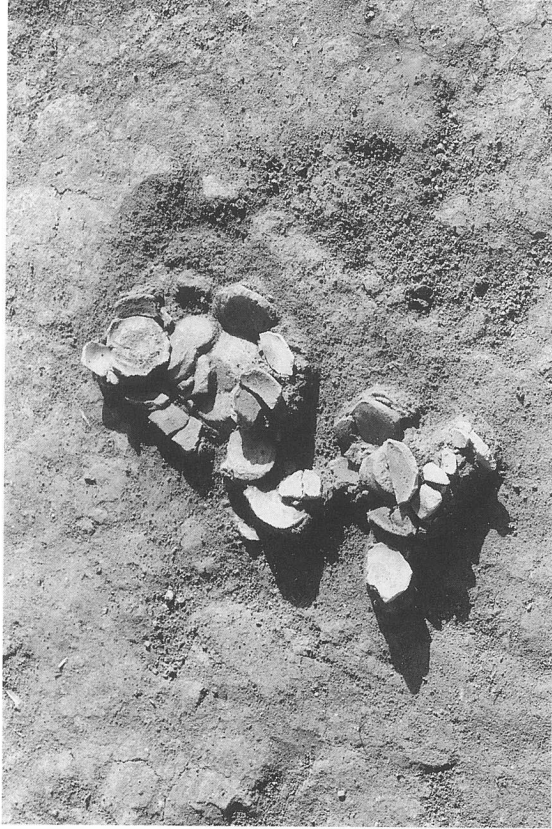
TSO・SX-1 臺壇掘り下げ状況・南から



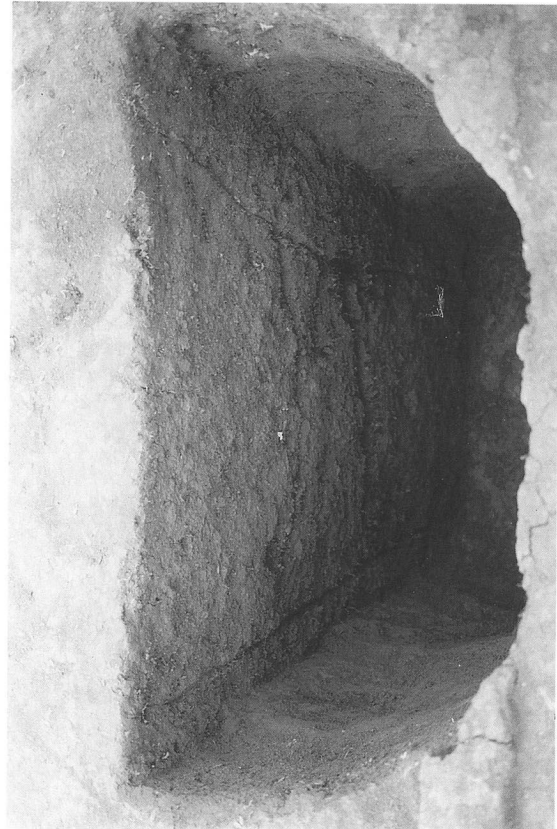
TSO・SX-1 表土除去後・南から



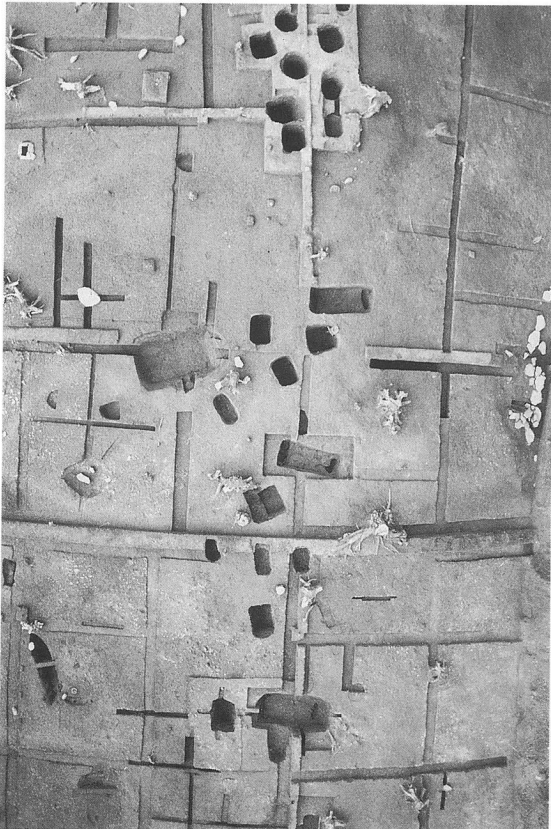
TSO・SX-1 石列・西から



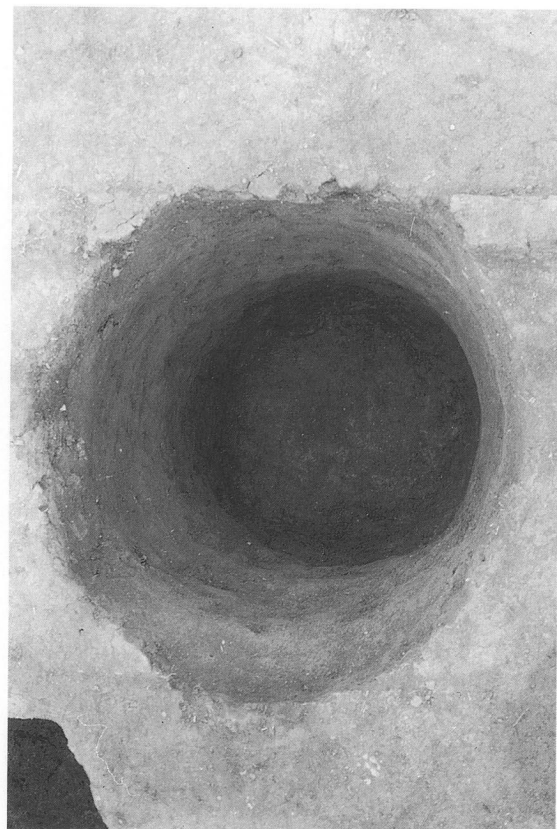
T S O ・ S X - 1 土器出土状況・北から



T S O ・ S K - 19 土層断面・東から



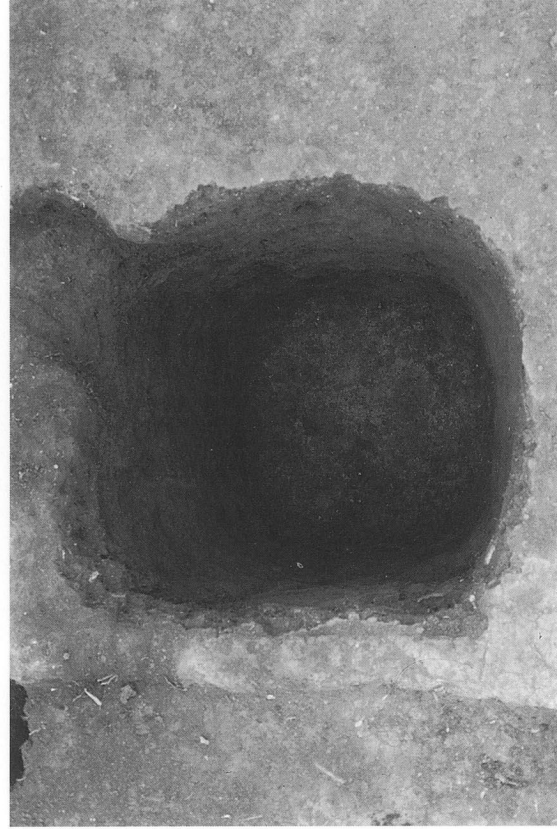
T S O ・ 近世墓の配置・東から



T S O ・ S K - 19 ・ 南から



T S O ・ S K - 21 ・ 西から



T S O ・ S K - 22 ・ 北から



T S O ・ S K - 20 ・ 北から



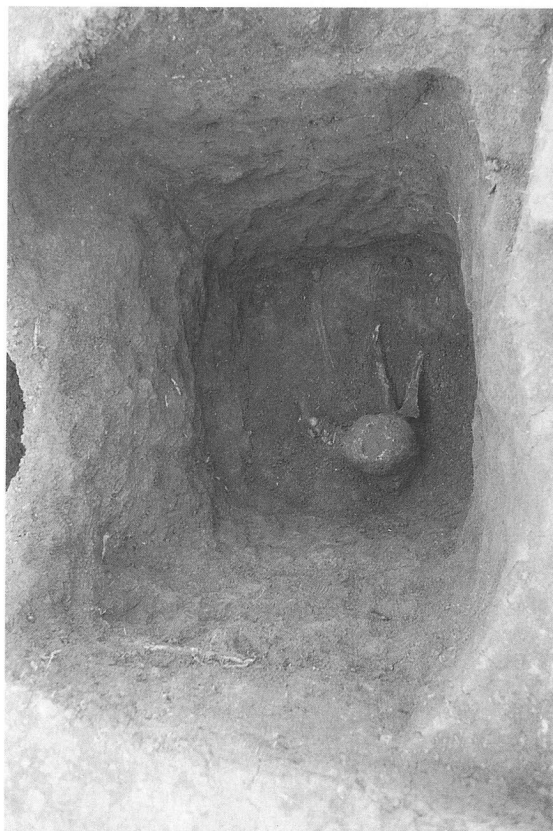
T S O ・ S K - 22 礫検出状況 ・ 北から



T S O ・ S K - 24 磔検出状況・南から



T S O ・ S K - 24 ・ 東から



T S O ・ S K - 23 ・ 北から



T S O ・ S K - 24 人骨出土状況・南から



T S O ・ S K - 2 6 ・ 北から



T S O ・ S K - 2 7 ・ 東から



T S O ・ S K - 2 5 ・ 西から



T S O ・ S K - 2 7 ・ 人骨出土状況・西から



TSO・SK-28、29石塔・南から



TSO・SK-28石塔・西から



TSO・SK-28 (左)、29 (右) 石塔・西から



TSO・SK-28石塔竿部銘文・西から



T S O ・ S K - 28石塔・北から



T S O ・ S K - 28石塔・東から



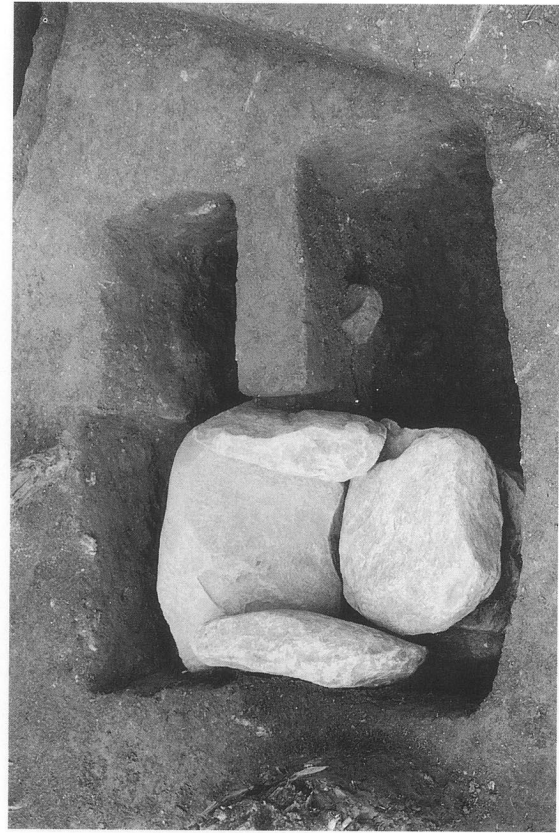
T S O ・ S K - 28 (右)、29 (左) 石塔下層礎検出状況・東から



T S O ・ S K - 29石塔・東から



T S O ・ S K - 28 ・ 西から



T S O ・ S K - 30 検出状況 ・ 南から



T S O ・ S K - 28 (上)、29 (下) 墓壇検出状況 ・ 南から



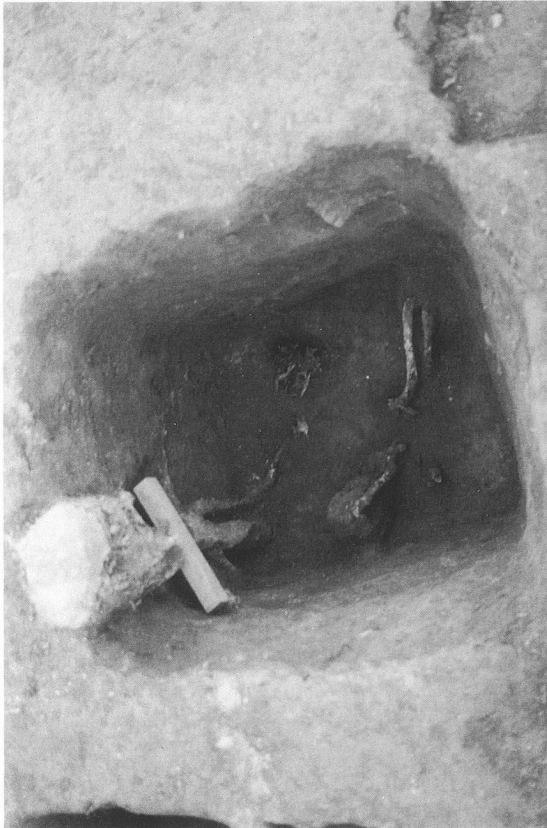
T S O ・ S K - 29 ・ 南から



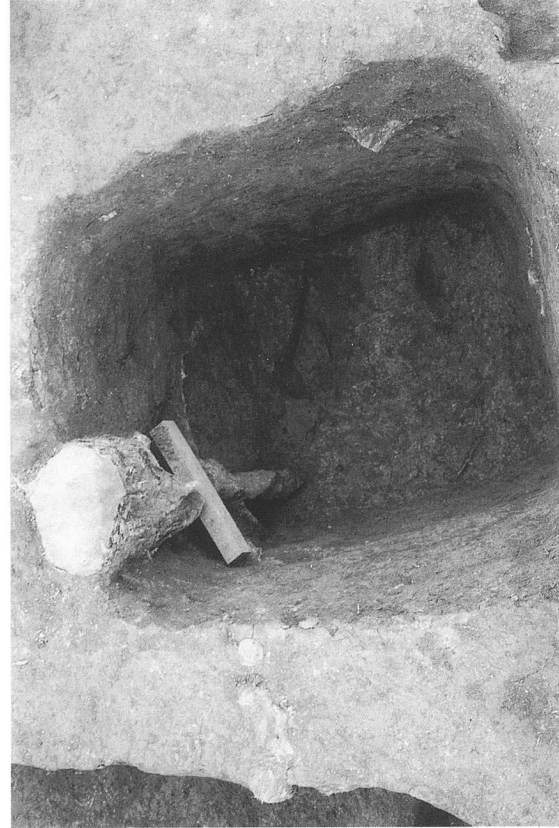
T S O ・ S K - 30 (左)、31 (右) ・ 北から



T S O ・ S K - 33 ・ 西から



T S O ・ S K - 32 人骨出土状況 ・ 東から



T S O ・ S K - 32 ・ 東から



TSO・SK-34 検出状況・南から



TSO・SK-37・西から



TSO・SK-34 種鉢 (262) 出土状況・北から



TSO・SK-36・西から



TSO・SK-38・南から



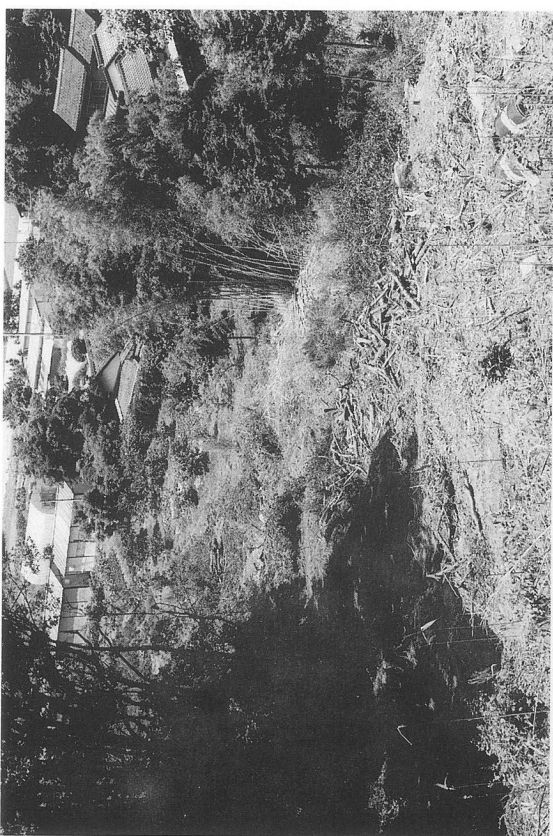
TS8・a、bブロック調査前・北東から



TS8・aブロック客土層検出状況・西から



TS8・aブロック客土層検出状況・東から



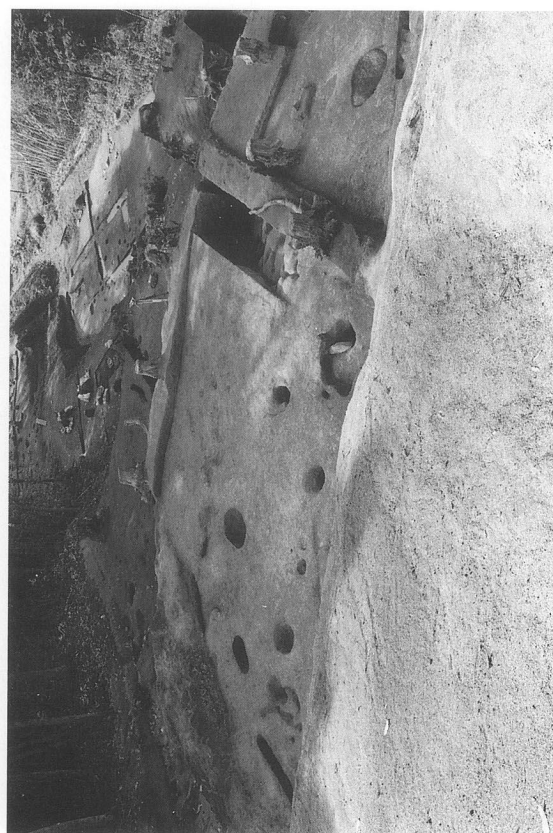
T S 8 ・ c ブロック調査前・東から



T S 8 ・ S S - 1 ・ 南東から



T S 8 ・ S S - 2 ・ 南東から



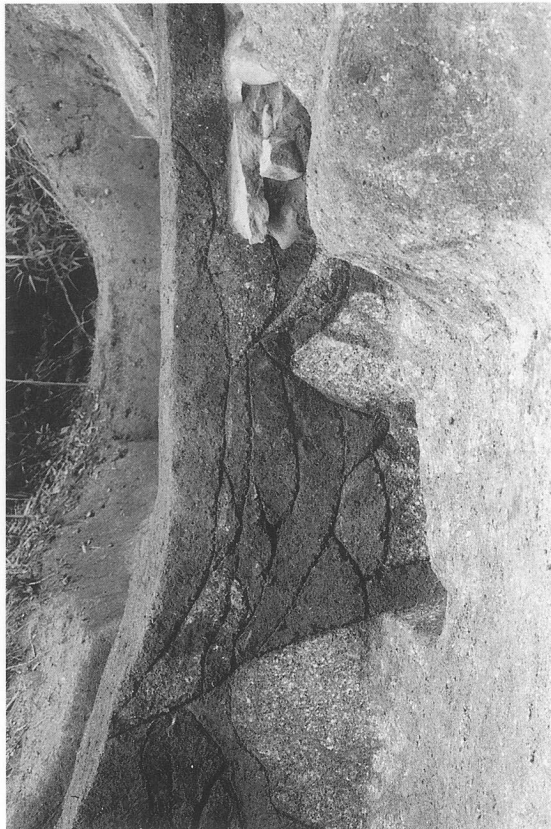
T S 8 ・ S S - 1 ピット検出状況・北東から



TS8・SK-1・西から



TS8・SK-2 (左)、3 (右)・西から



TS8・SK-1、SD-2土層断面・南から



TS8・SD-2・南から



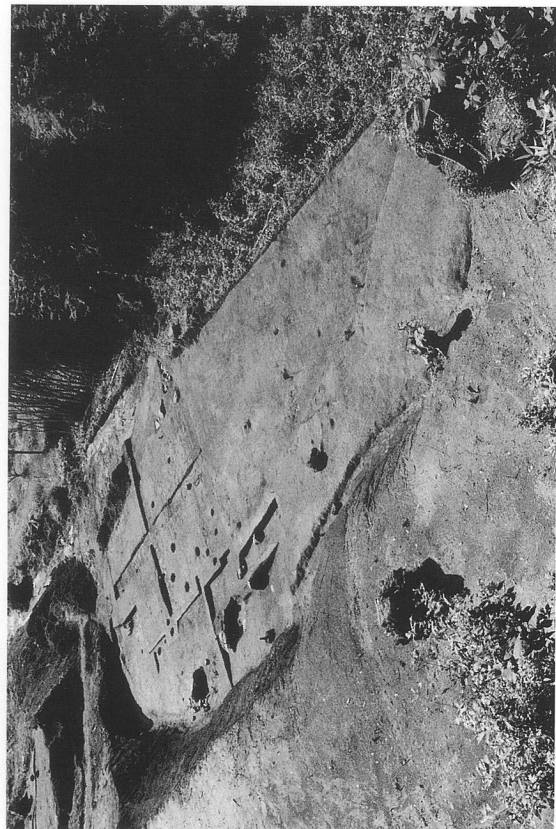
T S 8・土墨状遺構土層断面・北から



T S 8・S E - 1・西から



T S 8・土墨状遺構・東から



T S 8・S S - 7 ~ 10・北東から



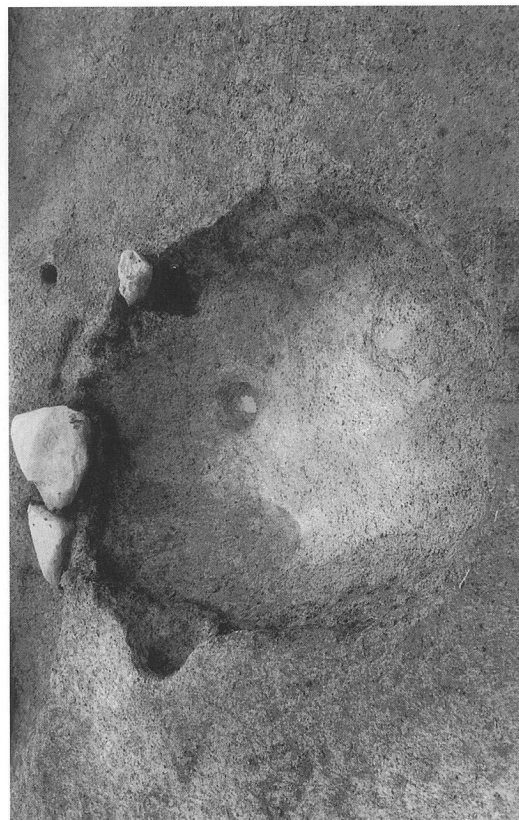
TS8・SE-1・竹管 (366) 出土状況・北西から



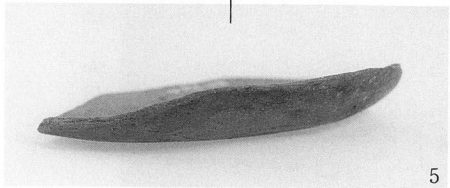
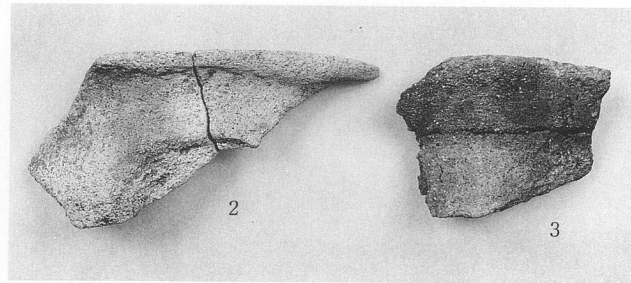
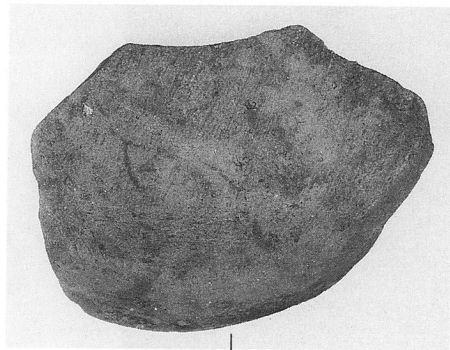
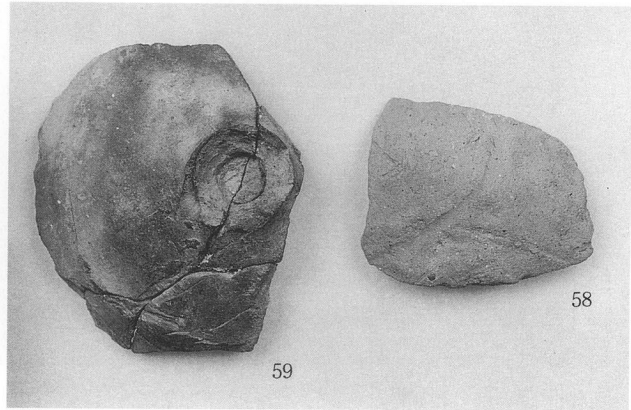
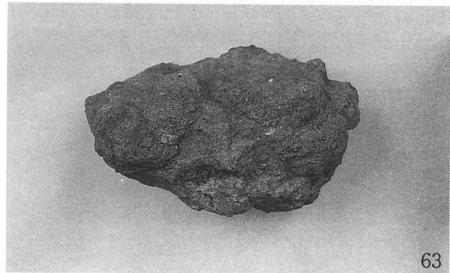
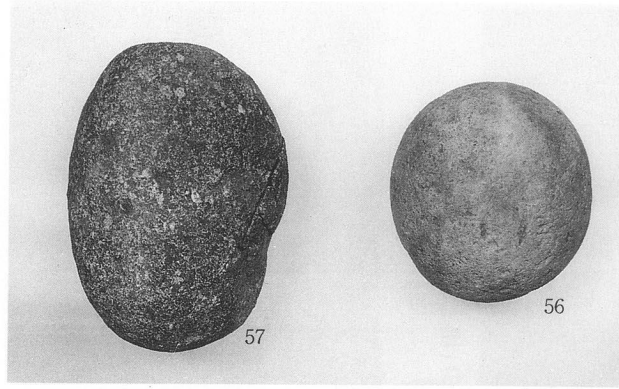
TS8・SS-4~6・北から



TS8・SE-1土層断面・北から

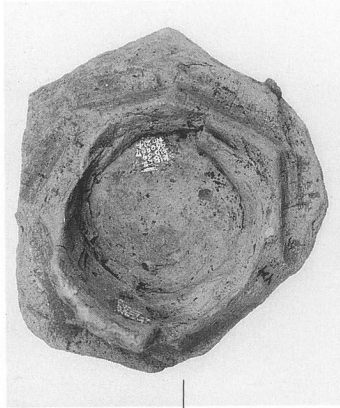


TS8・SE-2・北から

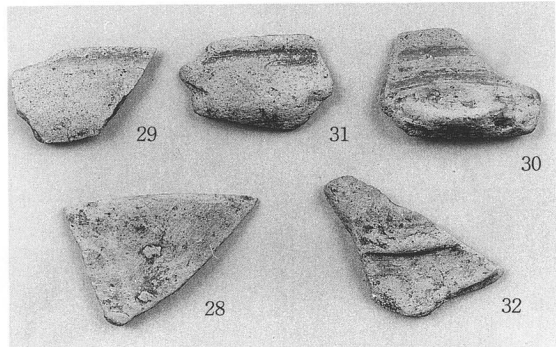


小町石橋ノ上遺跡出土遺物 1

SI-2・56、57 SI-3・58、59、63 SS-1・2、3、5 SS-1 周辺表採・8
(56、57-S=1/3、その他-S=1/2)



27



29

31

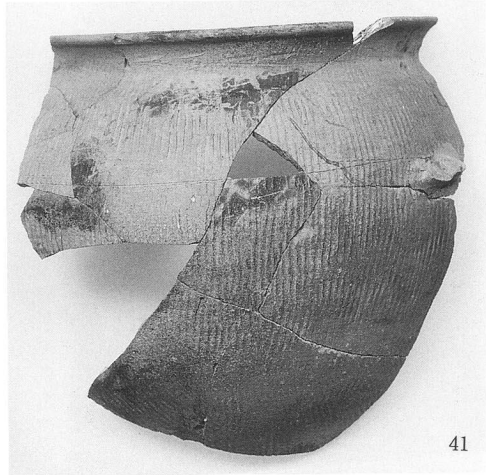
30

28

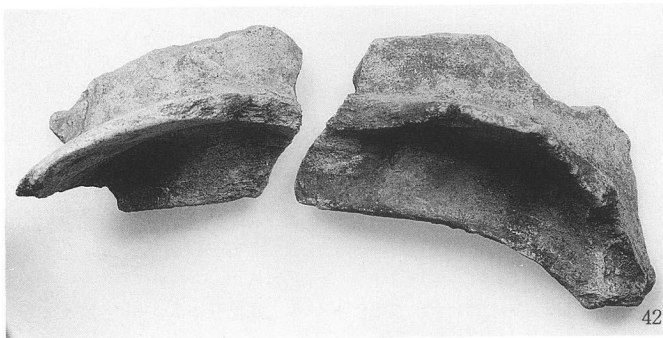
32



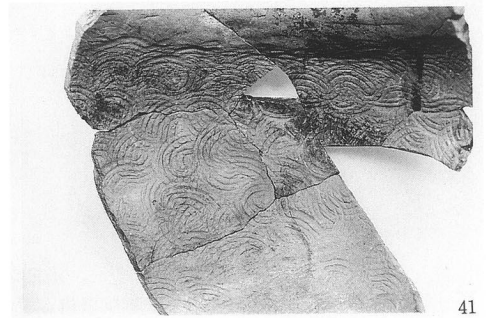
40



41



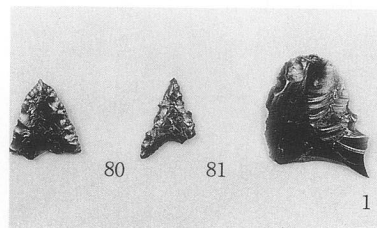
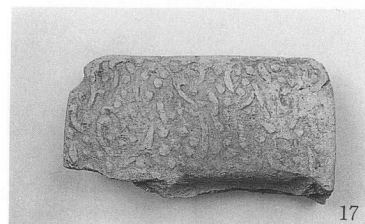
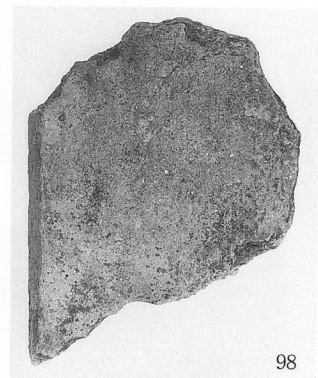
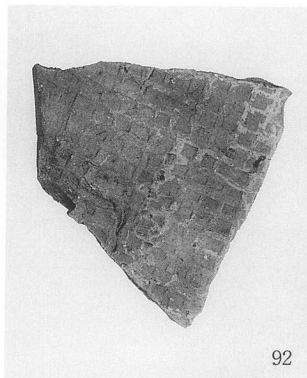
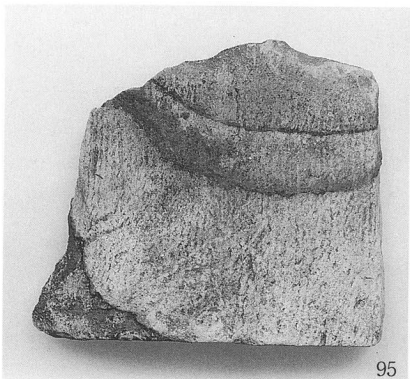
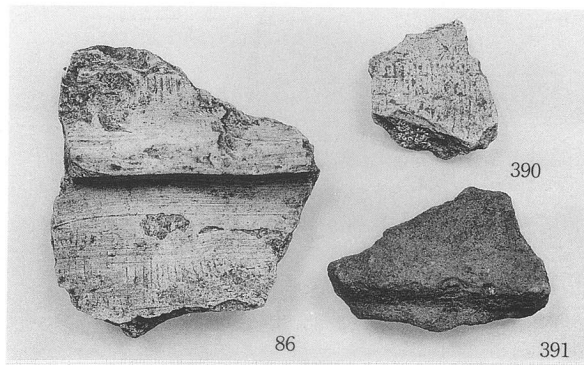
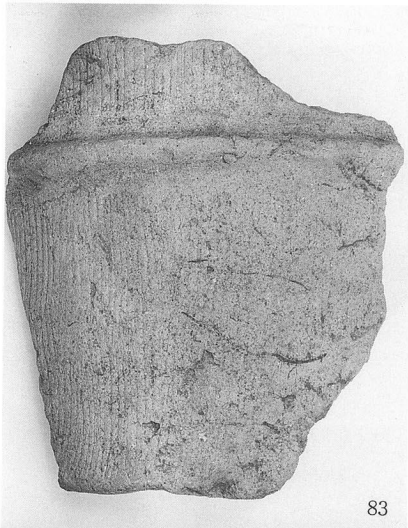
42



41

小町石橋ノ上遺跡出土遺物 2

SD-11・27~32, 40~42 (27~32-S=1/2, 40~42-S=1/4)



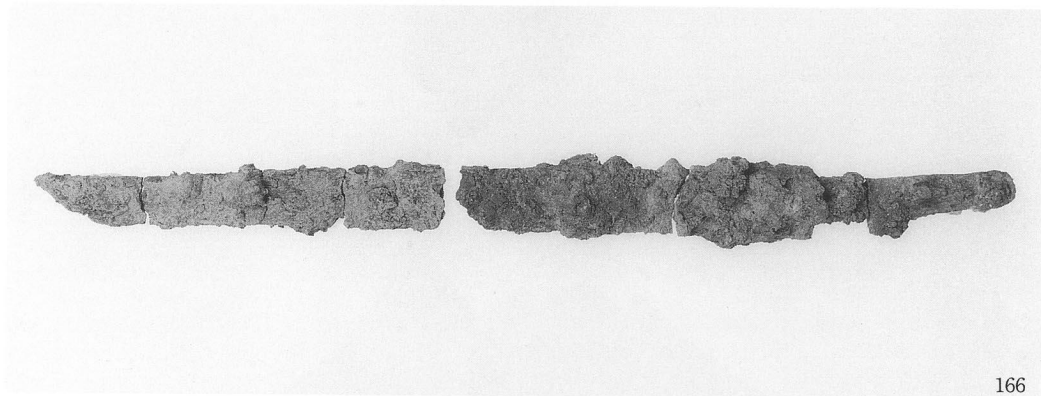
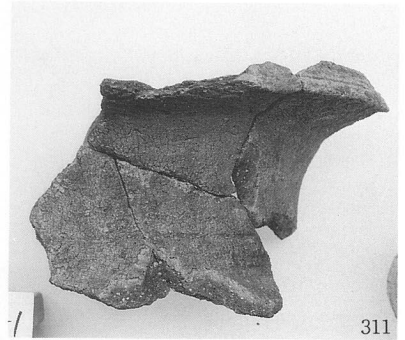
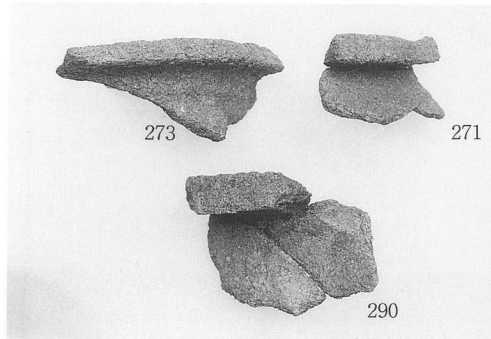
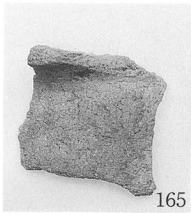
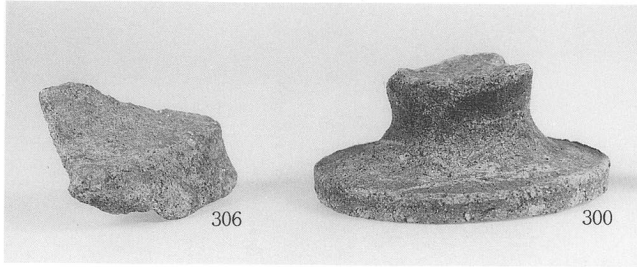
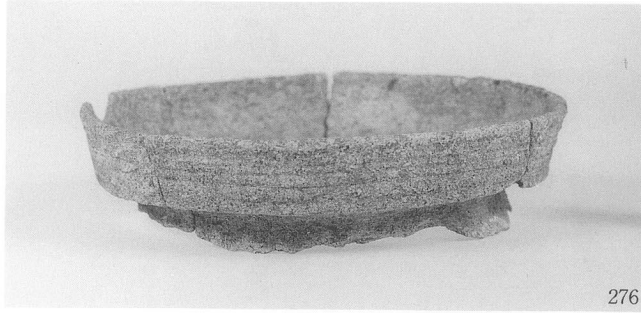
小町石橋ノ上遺跡出土遺物 3

SD-11・83, 92, 95, 98 土壘状遺構上層・86, 390, 391 SD-8・17, 18 SK-1・1 遺構外・80, 81
 (1, 80, 81-S=1/2, 18, 83-S=1/4, その他-S=1/3)



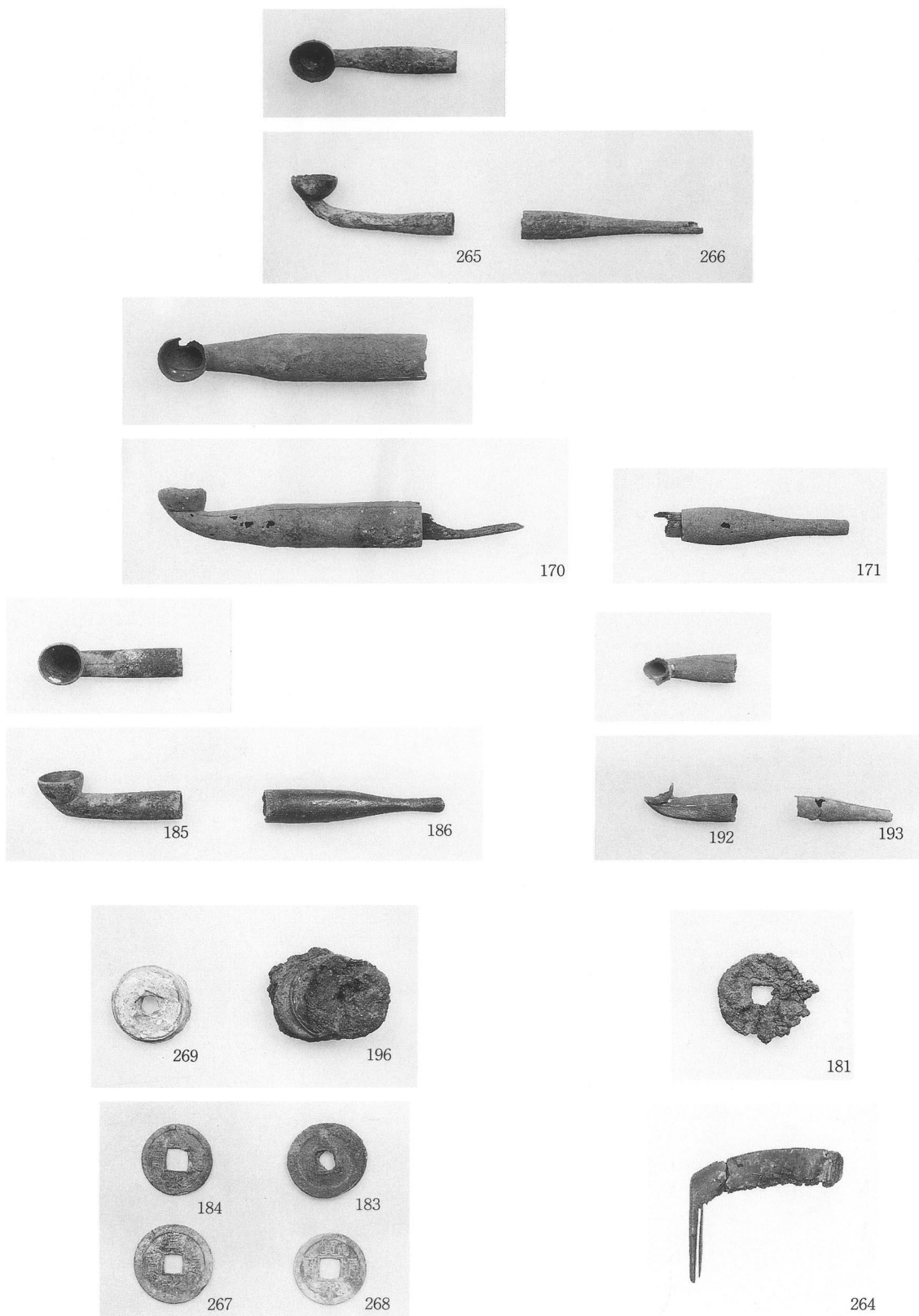
田住桶川遺跡出土遺物 1
遺構外・301~303 (S=1/2)

図版42



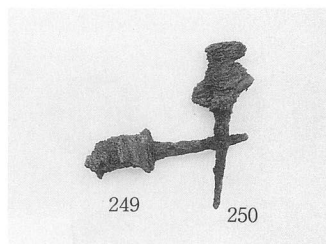
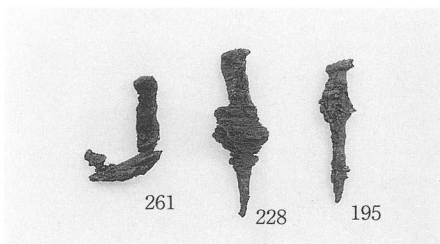
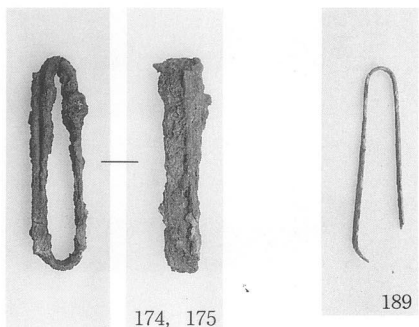
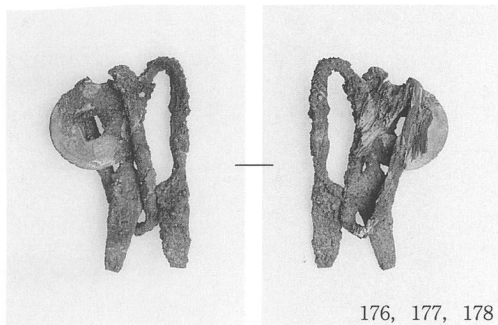
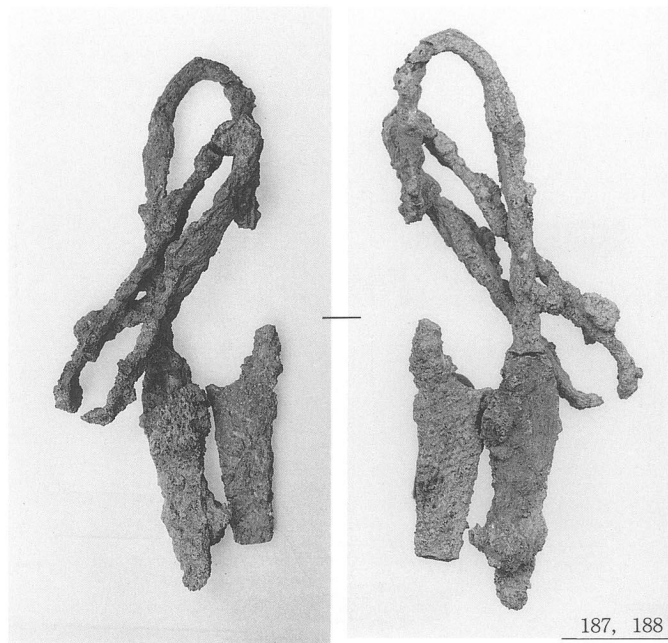
田住桶川遺跡出土遺物 2

SK-8・165 SK-16・166 遺構外・271, 273, 276, 290, 300, 306, 311, 318 (S=1/3)



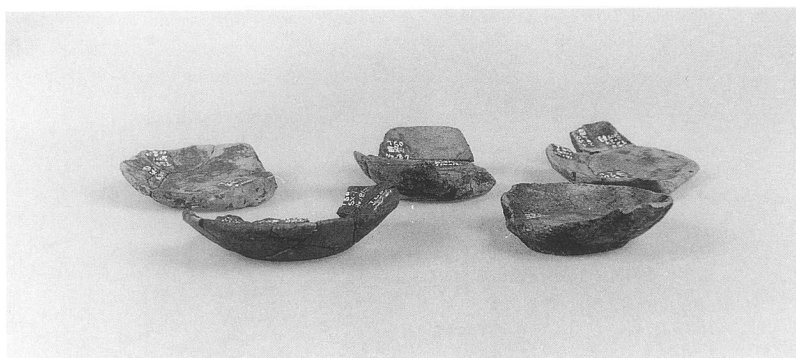
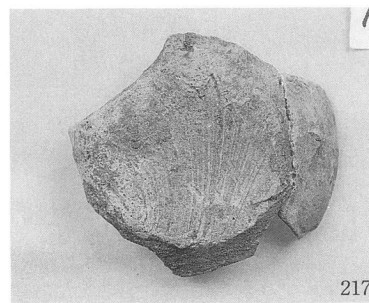
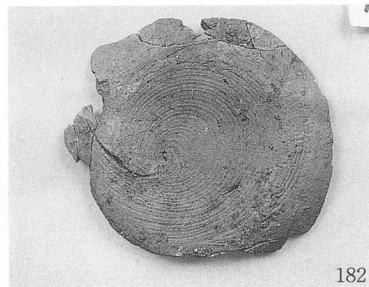
田住桶川遺跡出土遺物 3

SK-19・170, 171 SK-23・181 SK-24・183 SK-25・184~186
 SK-27・192, 193, 196 SK-36・264~268 SK-38・269 (S = 1 / 2)



田住桶川遺跡出土遺物 4

SK-19・174, 175 SK-23・176~178 SK-24・187, 188 SK-26・189
 SK-27・195 SK-32・228, 249, 250, 261 SK-35・263 (S=1/2)



田住桶川遺跡出土遺物 5

SK-24・182 SK-34・262 SX-1・198, 217 下段はSX-1出土小皿
(182, 217, 198-S=1/2, 262-S=1/4)



100

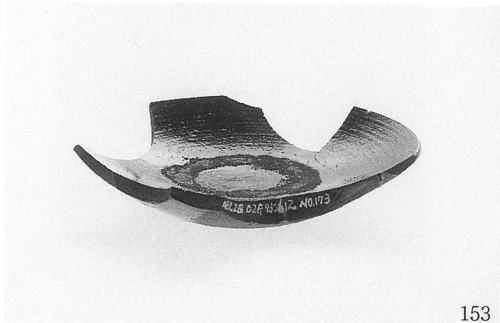


131

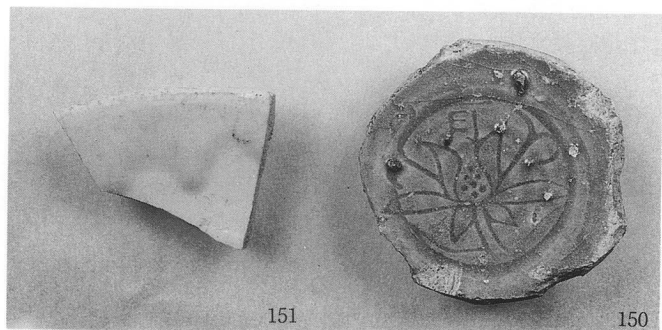


101

102

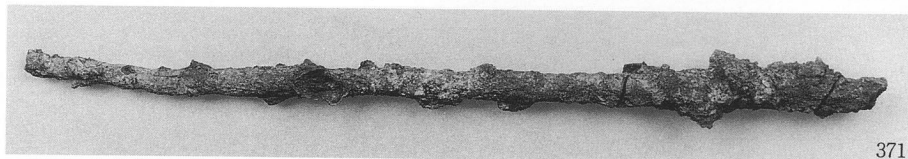


153



151

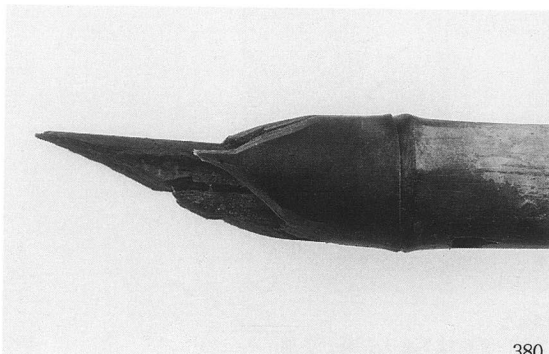
150



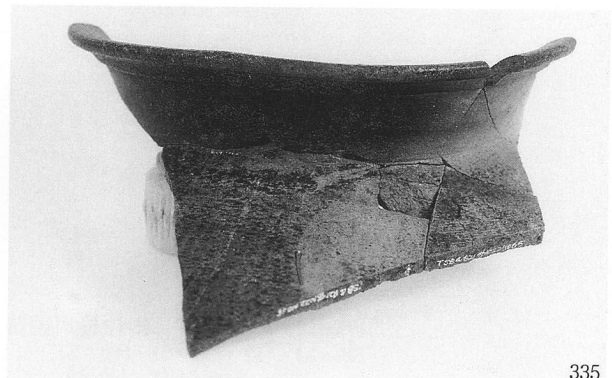
371



380



380

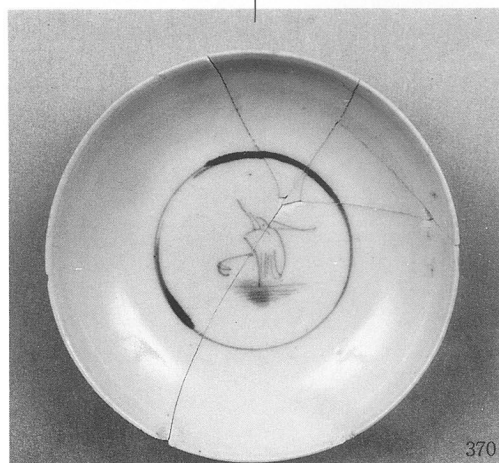


335

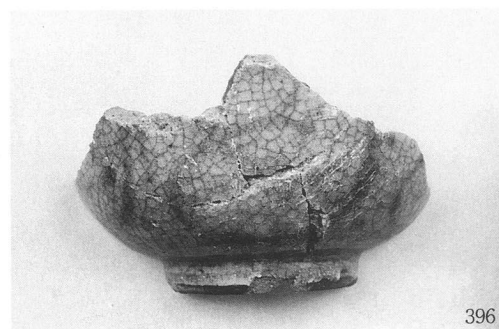
朝金第2遺跡出土遺物 田住第8遺跡出土遺物1

朝金第2遺跡遺構外・100~102, 131, 150, 151, 153 (S=1/2)

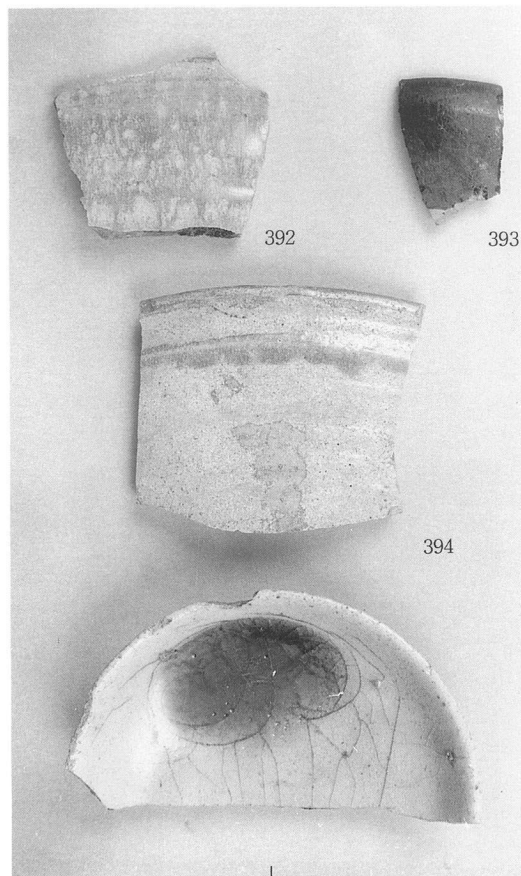
田住第8遺跡SK-1・371 SE-1・380 遺構外・335 (371-S=1/2, 380, 335-S=1/3)



370



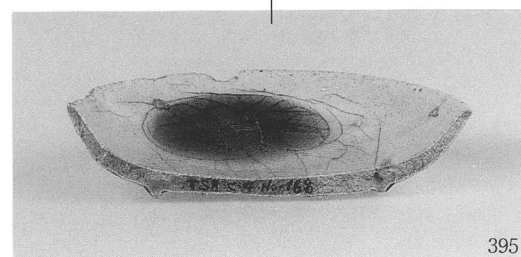
396



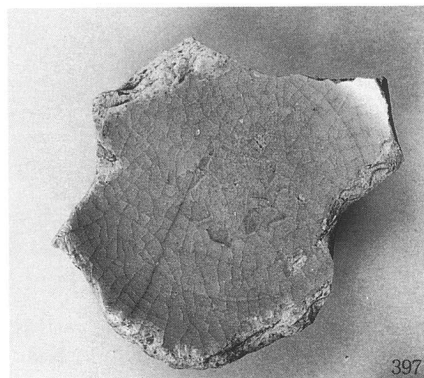
392

393

394



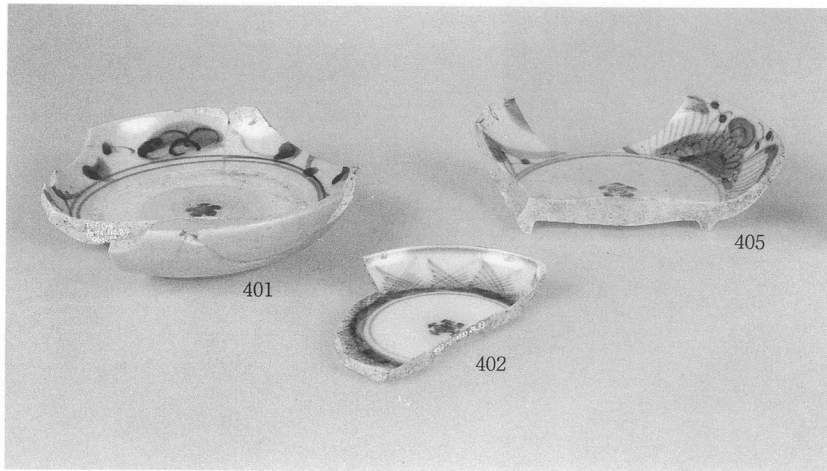
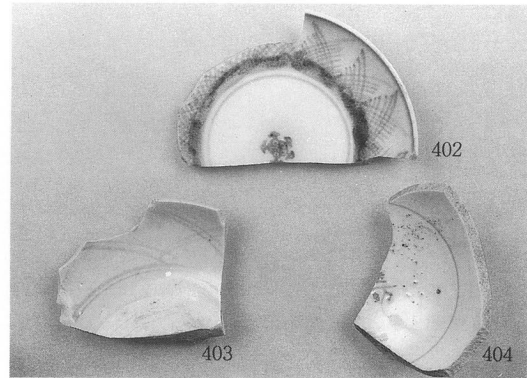
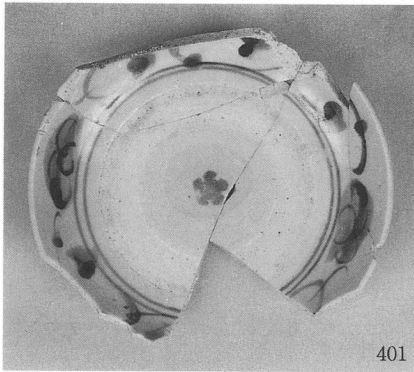
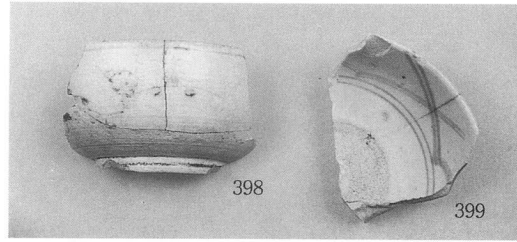
395



397

田住第 8 遺跡出土遺物 2
SS-2・370 遺構外・392~397 (S=1/2)

図版48



田住第8遺跡出土遺物3
遺構外・398~405 (S=1/3)

鳥取県教育文化財団調査報告書52

県営西伯地区広域農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県西伯郡岸本町

小町石橋ノ上遺跡

鳥取県西伯郡会見町

朝金第2遺跡

田住桶川遺跡

田住第8遺跡

発行 1997年3月31日

発行者 財団法人 鳥取県教育文化財団

〒680 鳥取市東町1丁目271番地

電話 (0857) 26-8397

印刷 有限会社米子プリント社